



紫陽会

一人ひとりの
個性が輝く
心ながらる
未来へ

発行

神戸大学 国際人間科学部同窓会紫陽会 会長 青木荘一郎
〒650-0011 神戸市中央区下山手通6-2-19
電話：078-371-6322 FAX：078-371-6306 郵便振替：01140-0-84600
Email：kobe-ajisai@shiyohkai.com URL：https://shiyohkai.com/

印刷

交友印刷株式会社
電話：078-303-0088 (代)



心つながる 未来へ

和田 彩

神戸には海と山がある。明石大橋が見える海岸沿いは本当に美しい。この景色を見ながら、大きな筆を使い、砂浜に大きく「心」を書く。青い海と空の下、白い砂浜がキャンパスだ。

書くという行為は筆だけではない。掘る、盛る、いろんな形で「心」を描く。私の「心」は人を動かす。

「何かな?」「おもしろそう」「やってみたい」と、心と心が繋がっていく。限界や既成概念を少しだけ取り除いたら、書の新しい形が見えた。

私の書く「心」は世界の友人達に響いていく。神戸の砂浜に書いた私の「心」は世界へ広がっていく。私は、書という不可思議な東洋の美を世界に飛躍させたい。

プロフィール

和田 彩 AYA WADA

わだ・あや 書家／筆跡鑑定士／学術博士

兵庫県神戸市生まれ

1991年 神戸大学教育学部卒業

1993年 神戸大学大学院 学校教育研究科修了

2010年 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程後期課程修了 博士号取得

神戸芸術文化会議会員、兵庫県書作家協会理事、飛雲会同人、六彩舎主宰

目次

表紙に寄せて・作者紹介	2
あいさつ	4
このような時代だからこそ	神戸大学同窓会紫陽会 会長 青木 荘一郎
国際人間科学部の完成年度終了に向けて	神戸大学国際人間科学部長 櫻井 徹
神戸大学国際人間科学部同窓会誌第1号を祝う「繋ぐ」	6
	前紫陽会 会長 宮嶋 昭周
国際人間科学部の現状と課題	8
コロナ禍の中で	神戸大学国際人間科学部事務部長 小紫 裕正
国際人間科学部での学び	会誌「紫陽会」編集委員会編
第14回ホームカミングデイ報告	10
全体企画 紫陽会賞授賞式 国際文化学部・国際文化学研究科企画 発達科学部企画	
学部企画パネルディスカッション（私たちを育ててくれた大学は今）	
ホームカミングデイを振り返って	人間環境学科卒業生 上西 優花
ひろがる私たちの可能性	発達コミュニティ学科4回生 大島 さくら
不易流行の大切さ	発達科学部大学院1998年修了生 富永 寛隆
神大から世界へ	発達科学部大学院2001年修了生 富岡 隆之
第10回紫陽会賞受賞者紹介	16
支部だより	17
	東京支部の活動 上田 雅弘
	大阪支部の活動 清岡 延吉
	姫路支部の活動 鍛示 芳子
会員だより	20
音楽の教師として	坂下 功一
フランス渡航体験記	中津 匡哉
“地域情報誌”の新しい役目とは	四宮 彩
ベトナム勤務を経て見えた日本留学	中馬 愛
新しい明日を創る	川口 嘉之
新型コロナ禍における学校運営	田原 唯志
教育実習事前実習を終えて	28
恋しい双方向の対面授業	松田 忠喜
ICT機器を活用した授業の工夫	岡田 治美
2020年度 評議員会報告・資料	30
評議員会（書面表決）	
2019年度事業報告・2020年度事業計画案	
基本財産・運用財産 2019年度決算報告・会計監査報告・2020年度予算案	
2020年度 評議員一覧	
事務局だより	34
第12回学部支援基金委員会報告	
学部支援基金へのご協力ありがとうございました	
会員の皆様のご協力・ご支援を	
「新型コロナウイルス感染症対策緊急基金」のお願い	
お悔やみ申しあげます	
会員寄贈図書	
あじさいの小径	



このような時代だからこそ

紫陽会会長 青木 荘一郎

1年前には思いも及ばなかった状況に社会は陥っています。コロナウィルスの感染状況は日々変化し、その対応に苦慮する毎日です。大学においても2月以降、従来の対面講義はできず、学生や教職員の皆様のご苦労は計り知れません。社会の感染状況を鑑みながら、5段階の対応レベルを設定され、10月からようやく、一部に対面講義を実施し、学生が大学に入構できる状況です。このような困難な状況の中、オンラインでの講義をはじめ様々な工夫をされ、学習・研究活動に取り組まれている関係者の皆様にあらためて敬意を表します。

紫陽会においても、コロナウィルス感染防止のため、例年とは異なる対応を余儀なくされています。とりわけ、昨年度は大学においては、発達科学部、国際文化学部から国際人間科学部への統合再編が完了する節目の年であっただけに、卒業祝賀会などの関係事業が実施できなかったのは大変残念です。祝賀会に代えて、記念品をお贈りし、同窓会としての心ばかりのお祝いとさせていただきます。

事務局運営も緊急事態宣言発令中は閉鎖や開局日の縮小で対応しました。例年8月に実施してしました評議員会も、書面表決により決算報告や今年度の活動案をご承認いただきました。会員の皆様には、様々な制約が多いくらしの中、ご協力いただいたことに、あらためて感謝いたします。

このような状況の中、社会全体も大きな変化を強いられています。「ステイ・ホーム」や「テレ・ワーク」などの言葉に代表されるように、良くも悪くも対面によるコミュニケーションは減少しています。経済活動も停滞し、それが学生の生活に与える影響も大きいと思います。同窓会が、現役学生を支援する取組が一層求められます。紫陽会では学友会（神戸大学単位同窓会の連合体）や神戸大学基金と連携

して、大学医療関係施設と経済的に苦しい状況に置かれている学生の支援に継続的に取り組んでいます。

閉塞感のただよう現在ですが「悪いことばかりではない」という声を学校関係の方からお聞きしました。休校期間中に子供も教師も保護者も、どれだけ「学校へ行く」ことが日常生活の中で重要な位置を占めているのか再認識でき、再開後の学校生活への意欲が高まったというのです。また、大学においては世界中の学生や大学と、実際に留学しなくてもwebによる交流ができるようになったという利点も聞きました。「ソーシャル・ディスタンス」に代表されるような生活様式の変化や、IT機器を活用した学習形態や勤務形態の変化だけでなく、このような時代だからこそ「変わる」ことができることがたくさんあるように思います。「ピンチはチャンス」という言葉があります。みんなが知恵を出し合い、努力することで、この苦境を新しい時代へのスタート台にできればと願っています。

会誌「紫陽会」も学部統合に合わせて会誌ナンバーを第1号にリセットしました。昨年のホームカミングディでのパネルディスカッションや、この号の投稿からも、会員が様々な職域、場所で活躍していることがわかります。国際人間科学部の多様性とエネルギーを感じます。紫陽会はこのような時代だからこそ「人と人をつなぐ」意識を強く持って活動を展開していきたいと思います。この会誌がその手立ての一つになればと願っています。

最後になりましたが、会員、準会員の皆様におかれましても、健康・衛生管理に留意され、健康に過ごされることを心よりお祈りいたします。



国際人間科学部の完成年度終了に向けて

神戸大学国際人間科学部長 櫻井 徹

新型コロナウイルス感染症の流行にもかかわらず、紫陽会会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。今年度ももちまして国際人間科学部はついに4年目の完成年度を迎え、年度末には初めての卒業生を送り出す運びになります。

2020年は、神戸大学も国際人間科学部もパンデミックへの対応に振り回されてきました。今回のコロナ禍から最大の被害を受けたのが、本学部のカリキュラムの最大の特長であるGSP（グローバル・スタディーズ・プログラム）でした。催行中止になったプログラム、日程を短縮して途中帰国を余儀なくされたプログラム、交換留学・中期留学を途中で切り上げて帰国せざるをえなかった学生は数多く、航空券・宿泊先等のキャンセルや再予約を余儀なくされたために学生に生じた損金は、総額で400万円を超えました。幸い、この損金については神戸大学基金への皆様のご寄付のおかげをもちまして、損失の9割方を学生に「見舞金」として支給することができませんでした。ご寄付を賜った皆様に、この場を借りまして厚く御礼を申し上げます。

また、今回のパンデミックに伴う海外研修・留学の中止・中断にかかわる膨大な業務は、太田和宏GSP室長や落合知子統括コーディネーターをはじめとするGSPオフィスのみなさんの奮迅の努力により何とか無事に遂行することができました。ここであらためて深謝を申し述べたいと思います。

海外研修・フィールド学修を核とするGSPは本学部の必修科目と位置づけられており、このプログラムの履修は卒業の必要条件になります。したがって、学生の海外派遣を再開できる見通しが不分明である現時点においては、今回のコロナ禍が学生の卒業の妨げにならないように、オンライン授業による国際的な研修の開拓・実施とカリキュラムの柔軟な

運用によって、学生全員が無理なくGSPを履修・修得できるように全力を注いでいます。海外研修・留学が完全に復旧するのは来年度以降になりそうですが、先生方、GSPオフィス、そして在学生を含めた多くの方々のご努力によって、この困難を切り抜けていけると確信しています。

今回のパンデミックは、私たち自身がすでにグローバル化の影響を直接に受けていることをまざまざと示しました。本学部にとってとりわけ重要なのは、このパンデミックが、グローバル化を経済的にも文化的にも大いに萎縮させるものだったことです。しかし、この“グローバル化の萎縮”から世界が立ち直るためには、グローバルな協力関係こそが必要です。私は、今回のパンデミックがもたらした“グローバル化の萎縮”という問題と向き合い、社会の“再グローバル化”に貢献できる人材を養成することこそ、国際人間科学部の使命だと考えています。

後期からは対面授業も徐々に増えつつあるものの、今のところ本学の大多数の授業は遠隔で実施されており、長い間、大学への入構もままならなかった学生たちはまことに不運だったと申し上げなければなりません。しかし、私は学生には、「身体の移動は不自由であっても、知性や想像力は世界を駆け巡ることができる。行動がきびしく制約されているからこそ、今できることは何か、今自分を鍛え上げるものは何かを考えて、貴重な学生時代を有意義に過ごしてほしい」と話しています。そういう時間こそ、安易に流れる時間以上に若者を成長させるのではないのでしょうか。

本学部がパンデミックの影響を無事切り抜け、多くの有為な人材を世に送り出していくために、紫陽会様の継続的なご支援が不可欠と考えています。今後ともいっそうのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

新しい感覚に共感と仲間の輪を

前紫陽会会長 宮嶋昭周

源流をたどること146年、神戸大学で最も長い歴史を持つ学部である。

時代の求めに応え、右の表のとおりの変遷を経て今日に至っているが、2万人を超える卒業生の業績を考えると、その底流に「人から学び、人を活かす」ことで地域に貢献する実践人を育成してきた歴史と伝統に気づかされるはずである。

2017年（平成29年）、教育学部から発展的に分離創設された国際文化学部と発達科学部が再び統合し国際人間科学部として生まれ変わったのも、激変する現代社会の中で神戸大学としてあるべき姿へ具現化いただいた大学当局の先見性にほかならない。

地球規模で顕在化しているGLOBAL ISSUES^(注)の現実を直接学ぶGLOBAL STUDIES PROGRAMを必須としたことで、幅広い視野を持つ実践型人材の輩出が期待される国際人間科学部の存在意義はいっそう高まるに違いない。

(注) 地球規模で生起している諸問題に共感し、人々と共同して解決すべき課題 本誌P9・P29参照

少子高齢化による年齢構成の歪みや、COVID-19禍で注目されるwith VIRUSのあり方を探る中で、教育制度をはじめとする社会のあり方改革が加速するように思う。

国際人間科学部で学ぶ皆さんには、幼保小中高などの学校から大学にいたる教育現場はもちろん、世の中を構成する多様な社会の核として、すばらしい学部での学修を基に、山積する今日的課題に伝えていただくことを心から願いたい。「教育立国」を願って設立された学部の歴史と伝統の真価は、数々のISSUEが頻発する今だからこそ発揮されることだろう。

2017年（平成29年）3月22日に行われた国際文化学部同窓会「翔鶴会」と教育学部並びにその前身師範学校及び発達科学部同窓会「紫陽会」の統合

を合意する調印式を経て、同年4月1日に神戸大学国際人間科学部同窓会「紫陽会」の新たな歩みがスタートしたことは、記憶に新しい。

2013年（平成25年）6月に「国際文化学部と発達科学部を統合し、新たな学部を創設する」という衝撃的なニュースを聞いてから4年、福田秀樹様、武田 廣様と二代にわたる学長先生、及び大月一弘様・櫻井 徹様、岡田章宏様・岡田修一様とこれも二代にわたる両研究科長（注）先生の関係方面（財務省、文部科学省）への折衝等、多くの困難を乗り越えるご尽力で待望の新学部が誕生したことはうれしいことであった。

(注) 国際文化学研究科長・人間発達環境学研究科長

1992年（平成4年）10月に教育学部が廃止され、教育学部定員のうち140名が解組された教養部へ移って「国際文化学部」が発足し、新たに「発達科学部」が誕生した経緯を考えると、今日の大学改編という大きなうねりが幸いして、同根の学部が25年の時を経て再び元に戻ったといえよう。

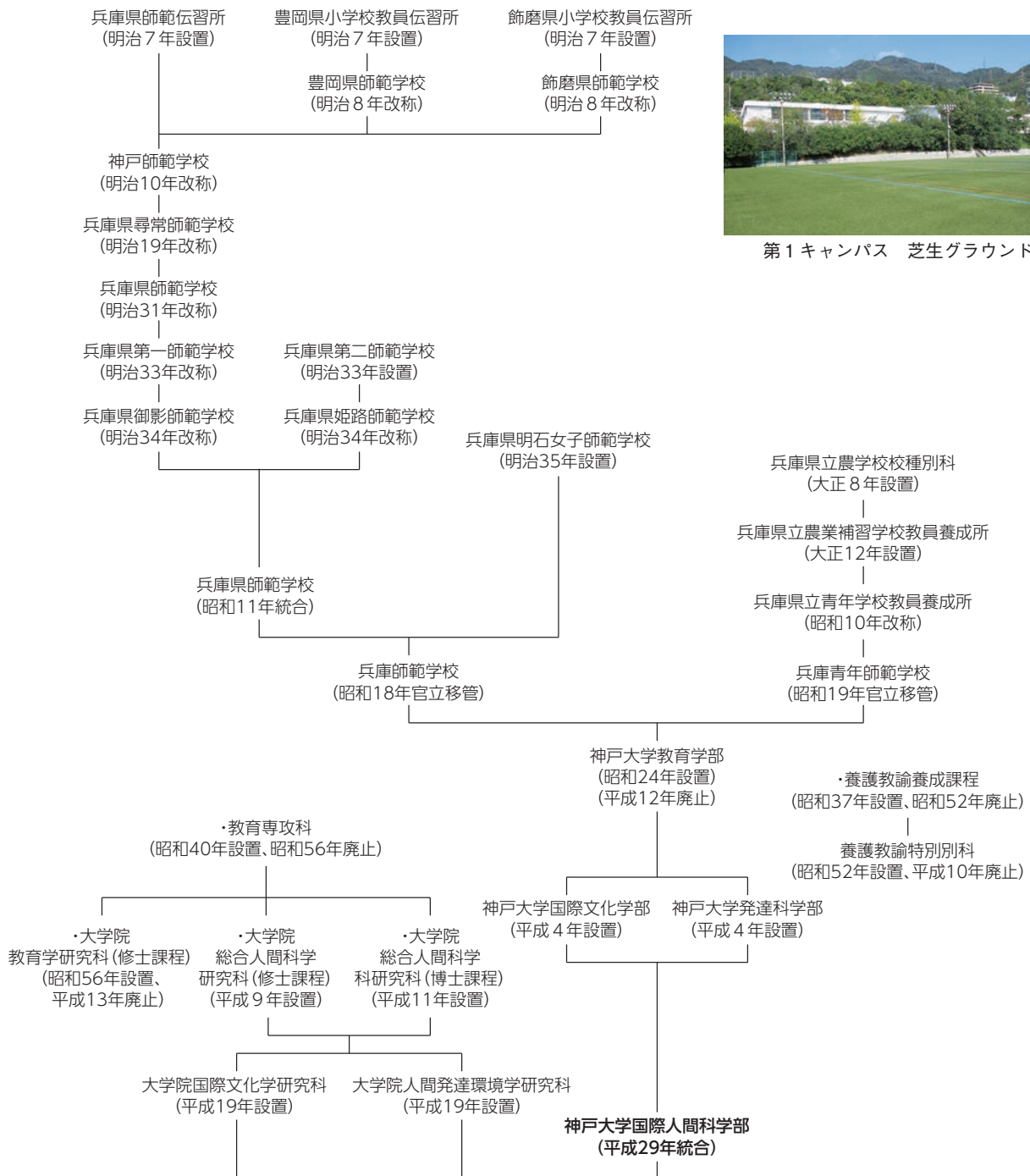
『人から学び、人を活かす』実践人の育成という学部源流以来の学是に、国際的な視野と感覚を体得するという最も神戸大学らしい学びの要素が加わることになる。この画期的な学びのプログラムが円滑に機能するために「紫陽会」は可能な限り応援したいと考える。

前身である両学部が目指してきた長所を融合し、新時代が求める人材を育成しようとする「国際人間科学部」に少しでも寄与できるよう、体制を整えていかねばならない。

二つの同窓会が統合したことで、現有会員は2万人を超える大所帯となる。

『人から学び、人を活かす、国際的な視野をもった実践人を育成する』ことを目指す、神戸大学らし

神戸大学国際人間科学部 沿革概要



第1キャンパス 芝生グラウンド

い学部の誕生を祝福する気持ちを共有していくことが、四半世紀の間に巣立った両学部の卒業生と前身学部を卒業した皆様相互の連帯意識に直結することになる。

これからグローバル・イシューを肌身で体得し、国際的な幅広い視野を持った実践人が次々と誕生していくことになる。素晴らしいことではないか。

「紫陽会」は、これから迎え入れるフレッシュな会員の新しい感覚に共感し、仲間の輪をいっそう広

げていく活動を重視していく。

会員の皆様のご理解とご支援を、心からお願い申しあげる。

新生『紫陽会』の会誌第1号が発刊されるにあたり、誌面を借りてではあるが、今日に至るまで双方の同窓会の充実発展にご尽力いただいた関係各位に心から感謝申しあげると共に、いつまでも「紫陽会」の大切な支柱であっていただくよう切にお願いして、お礼の言葉とさせていただきます。



コロナ禍の中で

神戸大学国際人間科学部事務部長
小紫裕正

紫陽会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

2017年4月国際人間科学部設置の際に、事務部長を拝命いたしました。

国際人間科学部の現状等について、報告させていただきます。

本学部の学びの特色の一つとして、グローバル 이슈解決のために多様な人々と協働し、その活動の中でリーダーシップを発揮する行動力を身に付けるための実践型教育プログラムとして、「グローバル・スタディーズ・プログラム (GSP)」を実施しています。

2017年度のGSPによる海外派遣は51名、2018年度は328名と順調に進んでいたところでしたが、コロナ禍の影響を受け、2019年度の海外派遣は334名と派遣人数自体は増えたものの、7プログラムが不催行となり、4プログラムが派遣期間の短縮、交換留学として派遣した学生も36名が途中帰国や一時帰国するなど大きな影響を受けました。そのため、キャンセル料の発生や途中帰国等による経済的な影響も受けました。そのような学生に対して、神戸大学基金から支援をいただきました。皆様の中からも新型コロナウイルス感染症対策緊急募金に寄附をいただいた方もおられると思います。この場をお借りし、厚くお礼申し上げます。

2020年度は、海外に派遣することができない状況にあるため、急遽、GSPオフィス及び教員の協働により、オンラインによる14プログラムを開発し、夏秋季に87名が参加予定となりました。2017年度生及び2018年度生については何とかGSP必修はクリアできたとしても新型コロナウイルス感染症が終息し、海外派遣が再開されなければ学生の教育に大きな影響を与えることとなります。

また、交換留学による受け入れについては、例年、年間60名程度の学生を受け入れていましたが、2020年度においては、1名のみを受け入れに留まっています。

授業においては、このコロナ禍の影響により、今年度第1クォーターの授業については、授業開始が遅れた上、遠隔授業となり、第2クォーターは原則として遠隔授業のみで、演習、実験又は実習の一部については対面、第3クォーターから遠隔授業を中心に開講で、講義、演習、実験又は実習の一部対面授業が実施されます。そのため、今年度の入学者については初めて大学に登校します。ただし、学生によっては、持病等により対面授業が受講できない場合は、遠隔授業が続くこととなります。

一方、学部運営については、取り越し苦労かもしれませんが、国際人間科学部は、国際文化学部と発達科学部という文化の違う学部が統合し、設置から少しずつ融合が図られてきたところでしたが、このコロナ禍の影響により、教員会議（全教員が参加）、教授会（教授のみの会議）、運営会議（教授会の代議委員会）及び各種委員会が対面での会議方式から全てオンライン会議に移ったため、学部の一体感が薄れてしまったような印象です。

この新型コロナウイルス感染症が一刻も早く終息し、教育や学部運営が通常に戻ることを祈るばかりです。

最後になりますが、紫陽会会員の皆様におかれましては、引き続き国際人間科学部ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国際人間科学部をよりよく知っていただくために



第1キャンパス 神大HPより

● 国際人間科学部での学び

国際人間科学部の沿革でおわかりのように、同根の2学部が統合した学部ですのでそれぞれの良さが発揮される4つの学科でなっています。

- ① **グローバル文化学科** 多文化間の境界を越えたコミュニケーションを推進できる、リーダーシップを備えた人材を育成することを目標としている学科です。
- ② **発達コミュニティ学科** 人間の多様な発達と、それを支えるコミュニティの実現に取り組む人材の育成のため、「発達基礎」「コミュニティ形成」の2本柱が設定されています。
- ③ **環境共生学科** グローバル共生社会を支える環境を創り出す分離融合型人材を育成するため、「環境基礎科学」「環境形成科学」の2本柱が設定されています。
- ④ **子ども教育学科** 現代社会の文化的多様性を尊重した子ども教育に取り組む人材を育成するため、「学校教育学」と「乳幼児教育学」の2つのコースがあります。

● グローバル・スタディーズ・プログラム (GSP) とは

国際人間科学部の必修プログラムのひとつで、実体験を通してグローバルイシューについて学ぶことを目的にした国際人間科学部ならではの特化した学修プログラムです。

全学部生が海外研修とフィールド学修に参加します。ただ今年はコロナ禍が実施の大きな障害となったことが伝えられています。

- ① 海外スタディーツアーや海外での各種実習へ参加する実践型コース
- ② 海外語学研修・提携する海外の大学でのサマースクール、国内でのフィールド学修へ参加する研修型コース
- ③ 交換留学・中期留学を選択する留学型コース

このプログラムを実施するため、32の国や地域の46教育機関（2020年現在）と協定を結んでいるとのことです。

● グローバル・スタディーズ・プログラム (GSP) オフィスの役割

参加する学生の専門性に合わせ、3つのコースのどのコースが最適化かを助言する専門家が常駐しています。学業と海外学修との組み合わせや事前事後の学修内容の打ち合わせ、海外研修先で生じた様々な問題への助言等、その業務は多岐にわたります。

最も大切なことは渡航中の学生の安心安全の確保です。

個々の学生への危機管理へのアドバイスはもちろんですが、神戸大学が持つ危機管理機能に加え海外の危機管理専門機関とも連携して渡航中の学生の安全確認を実施してくれています。

数年前に発生したニュージーランド大地震で、その機能の万全さが実証されたことは記憶に新しいことでした。

鶴甲第1, 鶴甲第2キャンパス それぞれに開設されています。

第14回ホームカミングデイ 2019（令和元）年10月26日（土）

全体企画

記念式典は、午前10時半から出光佐三記念六甲台講堂において行われた。武田廣学長挨拶に続いて、福永龍繁氏（昭和56年医学部卒業、現警察庁科学警察研究所長）の「日本の死因究明システム～神戸と監察医制度」と題しての講演がありました。

併せて、特別展・見学・イベントが行われ、参加者は社会科学系図書館見学、災害ボランティア団体写真展、山口誓子記念館などを見学し、神戸大学史特別展「新制『神戸大学』の誕生－新制大学発足70周年記念－」に立ち寄り貴重な歴史資料や写真などで新制大学黎明期を振り返りました。



武田廣学長挨拶

第9回 紫陽会賞 授賞式

坂下 功一 氏 教育学部音楽科 1964（昭和39）年卒

1983（昭和58）年に明石第九合唱団を結成以来、2018（平成30）年まで、指導者として市民合唱団の運営に努め、明石市市民の合唱文化が着実に根付いてきたのは氏の尽力の賜物です。

練習拠点であり、演奏会会場でもあった市民会館が阪神淡路大震災で被災し、合唱団存続の危機を迎えた時、「こんな時だからこそ第九を歌おう」という氏の呼びかけが、合唱を愛する市民の心を揺さぶり、明石の街に合唱文化をしっかりと根付かせました。

「合唱とは何か」を追究し続け、「明石第九合唱団」として結実させた氏の功績は、紫陽会賞にふさわしいものです。



授賞式



定期演奏会で指揮

国際文化学部・国際文化学研究科企画 鶴甲第1キャンパスE棟大会議室

2019年10月26日（土）、「10.26 活躍する卒業生に会いに行く日」をスローガンに、国際文化学部・国際文化学研究科のホームカミングデイが、鶴甲第1キャンパスE棟4階の大会議室で行われました。

2019年度は、学部の卒業生・研究科の修了生の9人が登壇し、大学での思い出や大学での勉強が現在の活動にどのように影響しているのかを話しました。登壇された卒業生・修了生は以下の人たちです：池田友紀

氏（2004年卒，トヨタ自動車），住田明世氏（2005年卒，元町映画館理事，株式会社ブレンセンター），嶋田詔太氏（2009年卒，アートラック・シマダ），吉峯旬作氏（2012年卒／2016年修了，兵庫県立龍野北高校），三宅洸太郎氏（2014年卒／2016年修了，NHK松江放送局），北澤彰大氏（2015年卒，株式会社小糸製作所），埴岡瞬氏（2016年卒，スタイラー株式会社），松井日向子氏（2017年卒，神戸市役所），菅健吾氏（2019年修了，毎日新聞社）。また，ゲストトークとして，国際文化学研究科に在学されたこともあり，現在はサッカー・ヴィッセル神戸トップチームの日・スペイン通訳として活躍されているサンティ・フェラン氏に講演をしていただきました。

また，現役生による活動紹介として，国際文化学部（現グローバル文化学科）で毎年4月に行われている新入生研修の報告，東北震災ボランティアの報告が行われ，在学中の学生たちが，どのような経験を積みながら大学生活を過ごしているのかを卒業生に伝えました。

生協食堂ホールで開かれた懇親会では，多くの参加者が年代の垣根なく交流を行い，楽しいひと時となりました。



大学での学びから今，

発達科学部企画 鶴甲第2キャンパスA棟大会議室

発達科学部としてのホームカミングデイは本年が最後となりました。

発達科学部では，例年，学内探検ツアー，キャンパスツアーと銘打って構内を案内していただきました。正門を入った植え込みにある前身の教育学部銘石を懐かしみ，学舎・教室・運動場・生協食堂などに学生生活を振り返り，時代とともに進化している設備に感心しつつのツアーでした。また，学生のダンスや弦楽演奏を見聴きさせてもらい学生の活動の一端を知ることができました。

- 学内探検ツアー 14：00～14：30
- 鶴甲へおかえりなさい 14：45～15：00
発達科学部長 紫陽会会長挨拶
- 紫陽会賞 授賞式 15：00～15：15
昨年度までに活躍された卒業生・現役生に対する表彰
- パネルディスカッション「ありがとう 発達科学部」 15：20～16：30
私たちを育てくれたキャンパスは今（詳細はP12～15参照）
- 懇親会 16：40～18：00

懐かしの生協食堂で，先輩，同級生，後輩，そして現役学生と語りあいました。



歓迎の管弦楽演奏



「神大生に戻ろう」懇親会で

学部企画パネルディスカッション – 私たちを育ててくれた大学は今 –

ホームカミングデイを振り返って ～一人ひとりのより善き生の実現～

上 西 優 花

発達科学部・人間環境学科 2019（平成31）年卒

この度は40号もの歴史のある会誌「紫陽会」に寄稿する機会をいただき、大変光栄に思います。ありがとうございます。

私は2016年に発達科学部に入学しました。自分と言うのもなんですが、少し特別な学年です。なぜなら翌2017年からは発達科学部と国際文化学部が統合され国際人間科学部となり、発達科学部は学生募集が停止となったため、私の代は「発達科学部最後の学年」となったからです。

私の所属していた人間環境学科・社会環境論コース（現在の環境共生学科・社会共生プログラムです）は毎年行われるコース合宿をはじめとした行事により、構成員の交流の機会が多く、同級生だけでなく、先輩や後輩、そして先生方も交え学部改組については何度も話をしていました。

そんな学部廃止・新設の渦中、4回生の秋にホームカミングデイのパネリストを任されました。これは私にとって、学部改組について自分の気持ちをまとめる良い機会となりました。発表内容は、ホームカミングデイには教育学部生・国際人間科学部生と、発達科学部のことをあまりご存じで無い方々が集まるということで、まずは発達科学部とはどういう学部なのかということ盛り込みました。それから発達科学部最後の学年の1人として、発達科学部から国際人間科学部につなぎたいことを発表しました。そのうち前者についてこの場を借りてもう一度お伝えします。発達科学部とは何だったのか、その意義を少しでもお伝えできれば幸いです。

科学技術の発展やグローバル化の進展により急速に経済・社会が変化している現代は、環境問題や平和問題など地球規模の課題があると思えば、少子高

齢化や地域経済の疲弊など国内の課題も散見されます。そのような状況では人間の発達が阻害されるかもしれません。そこで、人間一人ひとりのより善き生（=well-being）の実現を目指し創設されたのが発達科学部です。現代社会の課題は複合的で複雑なので、単一の学問分野のみで解決するのは困難です。その点を踏まえ発達科学部は学部として非常に学際性に富んでおり、教育学、心理学、健康科学、体育・スポーツ科学、社会学、芸術学、工学、理学、経済学、法学、農学、家政学等、多様な学問分野から「人の発達とは何か」、「人の発達を支える環境とは何か」この2つと向き合うことで、well-beingの実現を目指します。

恥ずかしながら、ホームカミングデイで発表するまで、私は発達科学部がwell-beingの実現を目指していたと知りませんでした。しかし、それまで学部で学んできたことを振り返ると、ここでは詳しく書きませんが、確かにそうだと感じました。well-beingへの意識は学生時代にすり込まれたようで、卒業し社会人になった今もそれを軸に物事を考えていることが多いです。社会人になり半年が経ち、社会人生活に慣れてきた一方で、実際の社会の在り方には色々違和感を抱くこともあります。私はその感覚を大切にしたいと思います。なかなか上手くはいきませんが違和感に慣れず、向き合うことが、一人ひとりのより善き生を実現するために自分にできる第一歩だと思うからです。

さて、2020年度から、全4学年に国際人間科学部生が揃い、国際人間科学部は本格的に始動します。「国際人間科学部に来て良かった」と、学生や教員などの構成員が愛着の持てる学部になるよう、国際人間科学部の今後の発展を願っております。

参 考

神戸大学発達科学部

神戸大学大学院人間発達環境学研究科HP

<https://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/node/16>

（閲覧日2020年9月30日）

ひろがる私たちの可能性

～国際人間科学部「だからこそ」得られたもの～

大島 さくら

国際人間科学部 発達コミュニティ学科 4回生

2019年度ホームカミングデイにて、私は2017年度より新たに創設された国際人間科学部の一期生として、当学部の構成や特徴、そしてこの学部だったからこそ学べたこと、もつことができた将来の目標・理想についてお話をさせていただきました。

現在私は、カウンセラーになることを目指して勉強しています。はじめは心理学を学ぶために神戸大学に入学しましたが、国際人間科学部ではそれ以上に多くの大切な知見、観点を得ることができました。

国際人間科学部は、国際文化学部と発達科学部とが合わさるかたちで創設されました。その大きな特色として、Global studies Program (GSP) が挙げられます。このプログラムは、留学という実体験を通して、学生一人一人がグローバルイシューと向き合い、考えることが目的となっています。実際に私はフィンランドのワークキャンプに2週間参加し、現地の学生やカウンセラーの方々とお話を通して、日本とは異なる文化、カウンセリングに対する考え方等を学ぶことができました。これらはただ国内で勉強しているだけでは得られなかった知見だろうと感じています。

また、自分の専攻にとらわれず、多様な学問の観点から学び、研究や実践に取り組むことができる『学際性』も、国際人間科学部の大きな特色といえます。特に私が所属する発達コミュニティ学科には、心理

学、社会福祉、スポーツ科学、音楽や絵画、ダンスといった芸術、さまざまな学問を専攻するプログラムが存在し、それらを融合したり、自分の中に取り入れる学びが可能です。

以上より、国際人間科学部発達コミュニティ学科で学んだ私が将来目指す姿は、『幅広い観点からサポートできるカウンセラー』です。

まずGSPでの留学経験より、日本のみでなく、相談の難しい留学生・外国人労働者を対象としたサポートも行えるように。続いて国際人間科学部の『学際性』より、心理学だけでなく、音楽やアートの力、社会支援を視野に入れたサポートができるように。そして最後に、どれだけ幅広いサポートができて、相手が望むものを提供できなければ意味がありません。したがって、相手が何を求めているのか、正確に見極められる、気づけるカウンセラーを目指していきたいと思っています。

こうした目標をもつことができたのは、間違いなく自分が神戸大学のこの学部、学科で学ぶことができたからこそだと感じています。

ホームカミングデイ当日には、以上のことを発表させていただいた後、参加者の皆様に「国際的な視点について」、「カウンセラーの姿勢について」等、今後のために非常に有意義なご意見、討論をいただくことができました。皆様の豊富な経験、知見から、今後自分がどのような心構えでもって人々のサポートにあたりたいのか、どのような姿勢をこれから意識していくべきか、具体的に考え直す機会を得ることができたと感じております。このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝し、今後も自分の理想を実現していくため努めていきたいと思っています。



参加者とも意見交換、パネラーのみなさん



耳を傾ける参会者

不易流行の大切さ

～教育学部最後の卒業生として思うこと～

富永寛隆

教育学部体育科 1996（平成8）年卒
大学院 1998（平成10）年修了

「不易流行」

いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと。また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること。蕉風俳諧の理念の一つ。

『出典：三省堂 新明解四字熟語辞典』

教育学部 → 発達科学部 → 国際人間科学部

「不易流行」の考え。神戸大学は、常にこの意識を持っていると感じる。自身もこうありたい。

1. 自分の不易の基礎を作った大学時代

- 自分の思考の基礎を形作っている経験に出会えた時、恵まれた最高の仲間たち
 - ・教育学部中等体育科体育会での活動
 - ・阪神淡路大震災
 - ・大学院で近藤研究室における、厳しくも限界に挑戦できた素晴らしい日々

2. 流行の中で、不易となる自分の美学を追及して仕事をさせてもらった教諭時代

- 生徒を教えているつもりが、実は生徒から教えてもらうばかりであった。
 - ・授業 ・ホームルーム ・部活動
 人を相手にする仕事は、本当に楽しい。
- 先生は、生徒をたっぷり応援する存在。そうすると、今度は生徒が元気をくれます。
- 自分はやはり、研究が好き
 - ・学会に所属し、発表していく

3. 縁の下の重要性を知った。県教育委員会

- 自分は縁の下の蛙であり、活躍させてもらって

いたことを知った。

最初は挫折、しかし思い直すこと。するとこれまでの経験は、すべて今の仕事に活かされていく。

すべては、人が叶えてくれる。やってくれることにつながる。

4. 学生のみなさんへ

- 自分の美学と「不易流行」の感覚を併せ持つこと
 - ・それを体現するのが人生の面白み
- 持続可能な社会に貢献していく
 - ・自分の力をどのように活かすか。
- 周囲から応援してもらえる人に

略歴

1992年 神戸大学教育学部 中等体育科 入学
1996年 神戸大学大学院 教育学研究科 入学
1998年 滋賀県立水口東高等学校 教諭
2002年 滋賀県立八幡商業高等学校 教諭
2019年 滋賀県教育委員会事務局 保健体育課 学校体育係（現職）

昨年の「神戸大学ホームカミングデイ」では、本当にお世話になりました。母校で自身の話をさせていただける貴重な機会を与えていただき、今も感謝しております。

今年は、昨年の今頃では予想すらできない状況となりました。東京オリンピックが延期となり、私が担当していた事業である、「令和2年度 全国高等学校総合体育大会」（インターハイ）が中止となりました。このニュースは全国の高校生を直撃しました。多くの若い夢が、消えてしまいました。

我々が、「あたりまえ」として考えていた事象が、いかに脆いものかを痛感させられました。ただ、それでもやはり、人は努力し、工夫し、前を向いて生きています。

代替大会開催、テレワーク、新しい生活様式……たくましいですね。状況や時代、流れに合わせつつも、きっちりと本質を貫く人の姿を目の当たりにすると嬉しくなります。

「不易流行」。変わらないものの大切さと、変わっていくことの大切さ。

時代に合わせて、核となる部分を大切に变化する様は、まさに神戸大学の姿そのものです。改めてこの考えを大切に、私自身自身も時世にフィットさせて生きていきたいと思えます。

この考えを体現する神戸大学国際人間科学部、および紫陽会の益々のご発展を心より祈念しております。

参考資料

京都新聞 (2020年4月29日 朝刊)
「高校総体『分散開催』準備むなしく 史上初中止、開催予定地で落胆の声」
<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/230566>
(滋賀県教育委員会事務局保健体育課)

神戸大学から世界へ The essential skills to succeed in the global world today

富岡隆之

発達科学部人間環境学科 1999 (平成11) 年卒
大学院 2001 (平成13) 年修了

1. 経歴紹介

○ 2001年 株式会社 電通 入社

新入社員として関西支社配属。2年間の雑誌メディア担当業務を経て、営業として大手電機メーカーをはじめ複数の企業を担当。日本のみならず米国、欧州、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、香港、UAE、豪州など様々な国でのマーケティング業務に従事。

2018年より東京本社に勤務。主に外資系企業の広告活動を担当。

2. 世界に通用する人材とは

今や、どの業界においても国内市場だけで完結することはほとんどありません。日本ブランドの海外進出、海外からのインバウンドマーケティング、はたまた研究者として世界に向けて発表やディベート、共同研究に際して世界中の人々との交渉、または共に協議することが求められます。

様々な国を訪れ、そのマーケットでのビジネスに関わり様々なバックグラウンドの人と共に仕事を行っ

てきた経験から、世界で生き抜くために必要なスキル・知識とはどのようなものか紹介させていただきます。

3. 大学時代で何を学ぶか

発達科学部であれ、国際人間科学部であれ、大学生活を通じて学ぶことはたくさんあります。大学の勉強を通じて学ぶことも多いですし、部活、サークル活動、アルバイト、ボランティア、旅行、その他にあんな事もこんな事も大事な経験です。社会に出て生きるスキル・知識を身に付けるために今すべきことについてお伝えします。

4. これからの世界に羽ばたくみなさん

同じ大学の先輩として、社会人として、皆さんにお伝えしたいメッセージを最後に。

(当日レジュメより)

ホームカミングデイ2019を振り返って

母校に帰り、現役生や先生方、そして素晴らしい先輩方と関わる貴重な機会でした。私が現役生に伝えたかったことは、「好奇心をもってリアルな体験を」ということでした。インターネットを通じて何でも情報は得られる世の中ですが、やはり自ら生で体験・体感することで初めて心が揺さぶられ、気付きを得られることが多いです。今はコロナ禍で何かと制限されていますが、だからこそ、実体験・直接体験の価値が一層高まっています。人との関わりもそうです。発表でも多くの方の言葉を引用、紹介させて頂きましたが、全て直接会って感銘を受けた人の言葉でした。皆様もいろいろと実体験し、人と出会い、刺激を受けて己の好奇心を貫いて自分の個性を磨いてください。

最後に、諸先輩方からも「プノンペンのジョー理論」(田中泰延)は印象的だったとお言葉も頂きました。ご興味あれば「読みたいことを、書けばよい」という本を書かれていますので、ご一読ください。そんな宣伝で終わらせて頂きます！またいずれホームカミングデイが開催されることを楽しみにしております。

第10回 紫陽会賞受賞者紹介

学術研究、スポーツ・芸術などの文化活動、社会貢献活動などにおいて顕著な活躍されている会員、準会員の功績をたたえ、さらに今後の活躍を応援するために設けられた紫陽会賞も今年度で第10回を迎えました。残念ながら、コロナウィルス禍の中、準会員（現役生）の受賞はありませんでしたが、会員の部では下記のお二人に紫陽会賞をお贈りしますのでご紹介いたします。なお、授賞式は2021年ホームカミングデイの予定です。

会員の部

和田 彩 氏

教育学部技術科 1991（平成3）年卒
（P2 プロフィール参照）

神戸ビエンナーレをはじめ各地の書展に出品され多数の賞を受賞されてきました。

古筆に学びながらも、書を表現活動の一つととらえ、ダイナミックに多様な作品を創造されています。その作品は国際的にも注目され、2019年にはポーランド国立美術館で個展を開催されるなど、活躍の場を世界に広がられています。

また兵庫県や神戸市など地域での「書」を楽しむ活動の普及にも力を注いでおられ、「書」の新しい可能性を各地で示されています。研究分野においても、古筆筆墨書跡のコンピューター分析に関する論文も注目されています。

創作、研究両面において今後の書の文化の新たな担い手として大いに囑望されています。

〔主な受賞歴〕

- ・1994年 兵庫県書道展 神戸市長賞
- ・1995年 毎日書道展 毎日賞
- ・2018年 神戸市文化奨励賞 等



2019年1月 県民会館での個展

戸田 紘 氏

教育学部初等教育科 1964（昭和39）年卒

故郷 淡河への熱い思いと、神戸市の教員として勤務された中で大切にされていた教育への思いを背景に、長年にわたり淡河地域の教育史研究に取り組みされてきました。

「故郷のために何らかの形で恩返しをしなければ……」という思いが、先人の「村の学校」設立と運営に託した郷土愛に光を当てる猛烈なエネルギーとなり、研究取材を続ける中で古老や関係する人々の記憶を呼び覚ます一方、散逸する資料の集約に直結したことは大きな成果です。また、その中で戦後日本の教育制度の改革と変遷を、具体的に記述した氏の功績は多大です。

今回その研究成果をB6版全600ページを超す労作である「神戸市北区淡河町の学校園史考」4部作（小学校史・中学校史・高等学校史・幼稚園史）にまとめあげられました。

故郷を愛する氏の姿勢が、この一級資料の実現を可能にしてくれたと改めて感謝の意を表したいと思います。



淡河を語る一級の資料

東京支部

第19回 紫陽会 東京支部同窓会開催

上田 雅弘

教育学部教育科 1977（昭和52）年卒

2019年11月9日（土）午後、紫陽会東京支部の同窓会が東京六甲クラブで開催されました。

同窓会は毎年開催されていますが、今回は東京支部が1999年（平成11年）5月に設立されてから20年目の節目の同窓会となりました。

当日の参加者は、秋の行楽シーズンや行事が何かと重なる時期でもあったため12名とやや寂しい状況でしたが、赤井支部長（S38）から開会挨拶と支部報告があった後、齋藤さん（S46）による紫陽会評議員会の出席報告等が行われました。

これらの報告に加えて、今回の同窓会は従来と少し趣向を変えて、「全員参加型」というコンセプトで行われ、「百人一首かるた会」と「お茶の会」もありました。

「かるた会」では菅河さん（S60）が読み手となり、参加者が二班に分かれた「予選会」の後、「決勝戦」が行われ、見事、齋藤さんが優勝、松井さん（S36）と前田さん（S40）が準優勝され、賞品として（赤井支部長の奥様が）手作りのひな人形が贈呈されました！ また「お茶の会」は、裏千家教授でもいらっしゃる齋藤さんのマン・ツー・マンによるご指導で行われました。

多くの方が「何十年ぶりネ」と言いつつ歳も忘れて（?!）ワイワイとかるたとりに興じるとともに、不慣れな手つきながらも一人ずつが自ら立てたお茶



百人一首 かるた会



「お茶の会」マン・ツー・マンのご指導で

をお菓子とともに美味しく戴きました。

あっという間に予定の時間が経つほどに、本当に賑やかで楽しいひとときを過ごし、次回の再会を誓い合ってお開きとなりました。

〔追記〕

なお、今年2020年（令和2年）の同窓会は、新型コロナウイルスの状況が見通せないため、やむなく「中止」することにしました。来年以降、会員の皆様と安心して集える目途がつかましたら、改めてご案内します。



少人数でしたが楽しいひととき

大阪支部

大阪支部 総会・研修会・懇親会

支部長 清岡 延吉

教育学部初等教育科 1981（昭和56）年卒

紫陽会大阪支部は、毎年2月に総会と懇親会を開催しています。2020年2月11日（火・祝）11時より大阪府中央区の道頓堀ホテルにおきまして第37回総会を開催しました。

ご来賓として、神戸大学国際人間科学部長 櫻井徹先生、紫陽会会長 青木 荘一郎様にご臨席を賜り、ご挨拶をいただきました。その際、櫻井先生には、発達科学部と国際文化学部の再編から誕生しました国際人間科学部の特色あるカリキュラムと今後の展望について、青木会長様には紫陽会本部の新学部同窓会としての様々な活動や「人から学び、人を活かす」という教育学部から続く精神についてのお話もいただきました。

この後、議事に入り、岡田 治美前支部長より引き継いだ清岡 延吉支部長より事業報告と会計報告に続き、役員選出報告がありました。清岡支部長のもと令和2年度の大阪支部の体制が承認されました。

そして、今回のミニ研修会は、初等教育科昭和56年卒の関西大学等非常勤講師の松田 忠喜先生に、「特別活動と学校経営」という演題でご講演いただきました。

松田先生は、大阪府小中学校特別活動研究会前会長と、東大阪市で2つの小学校の校長職を経験されたことを基に、示唆に富んだお話をいただきました。

「特別活動の充実で学校がどう変わる」では、

- 学級経営に役立つ
- 学力向上につながる
- キャリア教育の要（かなめ）
- 生活指導上の問題を未然防止
- 道徳的实践に結び付く

についてお話をされました。

そして、学校経営を支える重要ポイントとの3つの「ワーク」（フットワーク、チームワーク、ネットワーク）などについても、特別活動と関連させながら、分かりやすくしかもユーモアたっぷりのお話に聞き入りました。



講演「特別活動と学校経営」 松田忠喜氏

総会に続いて開催しました懇親会では、一人一人の参加者から個性あふれる近況報告をいただき、お元気でご活躍されていることがうかがえました。来年も、元気に再会できることを誓って散会しました。



大阪支部総会 参会のみなさん

姫路支部

姫路支部 総会・研修会・懇親会

副支部長 鍛示 芳子

教育学部初等教育科 1983（昭和58）年卒

2020年2月2日（日）10時より姫路総社会館において姫路支部総会を開催しました。

神戸大学国際人間科学部長櫻井徹先生、青木荘一郎紫陽会会長 高岡保宏白鷺教育会会長にご臨席いただき、総会35名、懇親会32名の参加を得て、会を開くことができました。総会では、米田支部長からの挨拶と事業報告に続き、予算案・新役員が提案され了承されました。

会の中ではこの他に、「近年続く総会参加者の減少」について、昨年3月発達科学部卒業・人間発達環境学研究科修了の方で、同窓会名簿に姫路市の住所が記載されている方に「案内状を送ってもよいか」と呼びかけ参加を促す取組が紹介されました。

議事終了後、「誰が難民の人権を保障すればいいのか？」という演題で神戸大学国際人間科学部長櫻井徹先生のご講演を拝聴しました。

「難民の人権」という視点については、普段なかなか考えが及ばないことであり、大変興味深く講演を聞かせていただきました。そのお話の中で、第二次大戦前、自身が18年にわたり無国籍の立場に追いやられた政治哲学者ハンナ・アーレントが、ナチス政権に翻弄されドイツから他国へ亡命する人々を援助する活動に従事する最中、彼らの運命について語ったところによると、「人々は奪うことのできない人権、譲渡できない人権について語るとき、この権利はあらゆる政府から自立した権利であり、あらゆる人間に具わる権利としてすべての政府によって尊重されるべきだ」と考えていたことを教えてくださいました。何処にいても、どんな時も、どのような状況にあっても、人権は守られなければなりません。人権について改めて考える機会となり、大変ありがたかったです。

総会に続く懇親会の席では、今年度も同窓生の交流を深めることができました。また、当日の欠席者の内約100名の方々から、今年度もそれぞれの近況報告をいただき、総会参加者に披露させていただきました。姫路支部の活動を通して今も多くの同窓の絆が確認でき、その同窓生の皆様が今も多方面で元気に活躍されていることもわかりました。

来年度の再会を誓い、紫陽会姫路支部総会・懇親会を閉会しました。

● 学部へのアクセス

P16で紹介した4つの学科は隣接する2つのキャンパスにあります。

① 鶴甲第1キャンパス [グローバル文化学科]

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1-2-1
JR六甲道駅前発 神戸市バス16系統
「六甲ケーブル下方面」行きに乗車
「神大国際文化化学研究科」で下車

② 鶴甲第2キャンパス [発達コミュニティ学科・環境共生学科・子ども教育学科]

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11
JR六甲道駅前発 神戸市バス36系統
「鶴甲団地」行きに乗車
「神大人間発達環境学研究科」で下車

コロナ禍で今年は中止となりましたが、ホームカミングデイなどのご案内があれば、お誘い合わせの上、是非キャンパスの内外を見て回ってください。

学びの環境の素晴らしさに、目を見張ることが多いことと思います。

後事を託す学生の皆さんの大成を願い、設備の充実に努めてきた「学部支援基金」や「特別維持会費」へのご理解とご協力に感謝申し上げます。

音楽の教師として

坂下 功一

教育学部音楽科（声楽専攻）1964（昭和56）年卒
2019年度紫陽会賞授賞

私は1960年に教育学部音楽科（声楽専攻）に入学しました。振り返ってみれば、神戸大学で勉強できたことは随分ラッキーというか“儲けもの”であった、と感謝しています。専攻した声楽の石田先生の言葉が今でも強烈に残っています。シューマンの歌曲を歌った時「お前はヨーロッパの人たちがどれだけ春を待ちわびているか、それをわかってない」と言われました。当時二十歳前で「歌はできるだけ綺麗な声で正確に歌えばいい」程度の認識しか持ち得なかった私に「その音楽の後ろにあるもの、作曲者が何を訴えようとしているのか」を探ることの大切さを強烈に感じさせてくださいました。もう一人、作曲の中村先生が「音楽が最高だ！」と発言した学生に「もっと他にも大事なことがあるやろ」とおっしゃったことです。この二つの言葉は高校の音楽教師としての私の大きなバックボーンになりました。生徒たちに「音楽は決して単独では存在しない。どのような社会情勢の中で、作曲者がどのような“おもい”でこの曲を創ったのか」を探る大切さをわかてもらえるような授業をしてきたつもりです。

私の合唱団との最初の出会いは、卒業した翌年、姫路市民合唱団が定期演奏会でフォーレの“レクイエム”のバリトン・ソロとして招いてくださったことです。その翌年指揮者として迎えてくださいました。大人の合唱団はそれぞれが成人した人間、それぞれの分野で十分なスキルを発揮された方々です。少しだけ楽譜が読めるから、ただそれだけでは合唱団員が納得して歌い続けてくださることはできません。名指揮者山本直純氏は「指揮者は教養だ」と言われました。今、歌っている曲はどう解釈したらいいのか？ この曲の背景には何があり、作曲者は何を伝えたいのか？ それらを説明する必要があります。「歌」の語源は「訴う」だと言われています。一つの言葉の後ろにはそれぞれの「おもい」が詰まっています。大人の合唱団のメンバーには、それぞれ



第34回明石混声合唱団定期演奏会

が辿ってきたそれぞれの人生があります。それぞれのメンバーが蓄積してきた“人間としての味”をだして欲しいのです。社会派の写真家土門拳氏が「意欲は目に現れ、生活は顔に現れ、教養は声に現れる」と言われました。私は合唱団員に技術的なものだけではない、大人としての“味のある演奏”を、お願いしてきました。

「第九」との出会いは1972年、姫路に本格的な演奏会用ホールができたことを機会に、姫路労音が企画し、当時姫路市民合唱団の指揮者をしていた私に声がかかりました。1983年明石でも市民会館の企画事業として「明石第九」が始まりました。「第九」の合唱指導という仕事を引き受けてから、一流の指揮者たちと同じ音楽創りという場で年に何度かお会いして指導いただく、という機会に恵まれました。プロの指揮者たちが持っている音楽に対する謙虚な態度と真摯な姿勢、そして音楽に限らない膨大な知識量。そのような一流の音楽家たちに直接接することができたこと、それは高校の音楽教師として、また合唱指導者として実に有益な仕事でした。宮本武蔵が「一芸に秀ずれば万芸に通ずる」と言いました。

「逆もまた真」です。自分の専門のことだけでなく、あらゆることに好奇心を持って接してゆくこと、それが自分の専門性を高めると同時に人間性の幅と深みを増していくてくれると考えます。“当たり前”といえはあまりにも“当たり前”，そんな“当たり前”のことを体感させてくれたもの、それが合唱でした。

フランス渡航体験記

中津 匡哉

国際文化学部コミュニケーション学科 2004（平成16）年卒

私は2004年3月に神戸大学国際文化学部コミュニケーション学科を卒業し、フランスに渡りました。渡航先はフランス北西部の中核都市・ナント（Nantes）です。神戸大学で学んだ歴史学を、ナント大学の大学院でより深く研究するのが渡仏の目的でした。学部生の時に、1年間休学をし、同じフランスのリヨンという町に語学留学をしていたこともあり、再びフランスの大学を選んだわけですが、大学院入学当初は、授業で使われる言葉の専門性、そこで扱われるテーマの難解さに悪戦苦闘し、議論を理解するのがやっとの状態でした。さらに学位を取得するにはフランス語で論文を執筆しなければなりません。

そのような環境の下、何とか学位をとれたのは、歴史学の持つ面白さをフランスで改めて知れたことが大きな要因でした。修士論文執筆の際、指導教授には、論文の肝となる「史料」をどのように見つけ、どのように扱うかを熱心に説かれました。歴史学では、研究者が扱う時代に生きた、その当時の人間によって作成された文書や資料を「一次資料」もしくは「史料」と呼びます。「史料」は、その時代を体験した人間が残した記録なので、後世に生きる私たちは、史料を通して彼らの「生の声」を聞くことができるわけです。

このような史料は、記録保存施設（アーカイブ）に保存されていますが、私が主に使用したのは、フランス外務省と防衛省が管轄するアーカイブです。専門分野が、幕末・明治の日仏交流史、特に両国の軍事交流だったので、パリにあるこの二つのアーカイブには足繁く通いました。そこでは、当時日本に滞在し、日本とフランスの交渉窓口だった外交官たちが本国に送った報告書、お雇い外国人として来日し、徳川幕府や明治政府の陸軍近代化に貢献した陸軍士官たちが書き綴った手紙や報告書を閲覧することができます。彼らが残した記録からは、もちろん

フランス語の文章によって伝達される様々な情報を得ることができますが、個人的な書体の癖、行間に書かれたメモ、一度書いた文字を迷った末に修正した痕跡など、言語的な情報以外にも、当時を生きた人間の息遣いを感じることができます。

またアーカイブには、非常に多様な人たちがそこに残されている情報を求めてやってきます。私のような歴史を学んでいる学生はもちろん、高校の歴史の先生、大学の教授、または自分のルーツを知るために史料を求める市民たちです。つまり、アーカイブは歴史を知るための施設であるだけでなく、今を生きる人たちとの交流の場でもあるのです。

現在、私は研究者として、このようなフランスのアーカイブに収められた文書を使って日仏交流史の研究をしています。より具体的に言うと、幕末にフランス人陸軍教官として日本にやってきたジュール・ブリュネ（Jules Brunet, 1838-1911）という人物について調べています。この人物の名は一般にはあまり知られていませんが、2003年に公開された『ラストサムライ』で、主演のトム・クルーズが演じたネイサン・オールグレンのモデルと言わ



ナント大学院で留学

られています。西洋人でありながら武士道に共感をし、近代的日本政府軍と戦ったネイサン・オールグルンは、戊辰戦争時フランス人でありながら榎本武揚率いる旧徳川軍と共に最後は箱館まで赴き官軍と戦ったジュール・ブリュネと同じ文脈で描かれています。ブリュネは、外国人でありながら日本の古き心を持っている「青い目のサムライ」として、映画のみならず、小説やテレビドラマでも取り上げられることがあります。現代人が描くブリュネに対するこのような英雄的イメージは、果たして当時彼がおかれていた歴史的な文脈に則したものなのかどうかを検証するという作業をしています。その時、研究の大事な手掛かりになるのは、実際にブリュネが思いをつづった手紙や、彼の行動に関して外交官や上官が残した報告書などの史料です。今から150年ほど前に書かれ、現在に受け継がれている史料を紐解き、ブリュネはその時何を考えていたのか、彼を取り巻く人間たちは、彼の行動をどのように評価し、どんな決断を下したのかを調べるのが、現在の私の主な研究活動です。

さて、2004年から2015年まで、10年以上フランスには滞在しましたが、当時の私は、大学生であ

りながら、日本語教師の仕事もしていました。ナントの日本語を教える、いくつかの高等教育機関で日本語を教える機会をいただいたのです。渡仏するまでは、日本語教育には全く携わったことがなかったので、どうしたら日本語をフランス人の学生たちに楽しく学んでもらえるかを独学で勉強しました。この時の経験は、現在のフランス語講師という仕事をする上で、大変役立っています。日本語とはどんな言語であるかを知ることによって、フランス語との間にどのような違いがあるのか等の議論を日本の学生としやすくなりました。

現在、新型コロナウイルスの影響で、海外渡航が非常に困難な状況です。外国に住む人たちとのやり取りは、主にオンライン上で行われ、実際に現地に行かなくともコミュニケーション可能な環境が整備されつつあります。しかし、日本ではない他の国に実際に行くことでしか感じられない、何か大切なことがたくさん存在することも確かです。その町のおいや温度、そこに住む人々の醸し出す雰囲気といった、オンラインでは感じ取れないことを感じるためにも、状況が落ち着けば、是非もう一度海外に足運びたいものです。

“地域情報誌”の新しい役目とは

四宮 彩

国際文化学部コミュニケーション学科 2004（平成16）年卒

兵庫県・神戸市から車で約1時間半。明石海峡大橋・大鳴門橋を渡った先にあるのは、“阿波おどり”や“鳴門のうずしお”で知られる徳島県。皆さま、足を運ばれたことはありますか？

在学中、インターンシップを通じて雑誌作りへの関心を高めた私は、この徳島県にてタウン情報誌を発行する「(株)あわわ」へと入社しました。社員30名程度の小さな出版社ですが、創業以来40年、地域で愛されてきた会社です。私にとっては生まれ育った場所へのUターン就職であり、地元へ貢献できるこの仕事にやりがいを感じています。

入社当時は、関西地域でも「関西ウォーカー」「KANSAI一週間」「ぴあ」「Meets」「Hanako」といった地域情報誌が充実していた頃。こういった“紙媒体”と呼ばれるものは、例えばラーメン特集・新店ランチ・イベント情報といったコンテンツを掲載し、雑誌を販売することで収益を得ていると思われます。しかし、1冊数百円の本が売れただけでは、印刷費の足し程度にしかありません。実際は、雑誌に広告を掲載するスポンサーからの出稿料が主な収益となっています。

雑誌が売れば売れるほど、もしくはフリーマガ

ジン・フリーペーパーとして流通すればするほど、掲載した広告の効果も上がり、次の広告出稿へとつながる。このような循環はもちろん今でも続いています。しかし今、街の人々が手にしているのはこの紙媒体だけではありません。スマートフォンが普及して以降、情報収集にはSNSでの口コミや、ポータルサイトなどを利用している方も多いでしょう。また、自治体や一般企業からの情報発信も積極的に行われるようになっていきます。

しかし、いずれのケースをとっても、企画・取材・編集といった基本の流れは変わりません。「あわわ」でも、時代に合ったWEBメディアの運営はもちろん、官公庁や企業の刊行物の制作、そこから発展したイベント運営や地域おこしなど業務は多岐にわたります。

私が主に担当している媒体に「子育て情報誌 ワイヤーママ」という月刊誌があります。親子レジャー、七五三特集、保育園ガイド、といった季節ネタの発信をしつつ、公式LINEを通じて読者とのコミュニティ作りにも注力しています。こういった編集部と読者とのつながりを活かし、商業施設での「赤ちゃんはいはいレース」や「キッズ撮影会」、県と共催の「親子エシカル料理教室」、経営者や人事部を対象にした「イクボス研修」など、子育てに関連したさまざまな取り組みで収益をあげています。

この秋ちょうどスタートしたのが、コロナ禍での子育て支援を目指す「オンラインワイヤーママ会」というプロジェクト。外出自粛の中、ストレスを抱



子育て情報誌「ワイヤーママ」で地域づくり

えるパパママの孤立化を防ぐため、管理栄養士・絵本講師・親子ヨガインストラクターといった“ママ講師”を招いた交流会を定期開催するという県の委託事業です。新型コロナ対策として編み出されたこのような企画が、「場所や時間を気にせず参加できる」とママたちから評価してもらっています。

新型コロナは、もちろん地方経済にも深刻な影響を与えています。しかし、それに関連して急速に進んだオンライン化は、地方と都市部との距離を縮めたり、子育て中のパパママと社会との格差をなくしたりと、新たな可能性も見出しています。人口流出や少子高齢化といった問題へのアプローチになることは間違いありません。私たちはこの変化をチャンスと捉え、“徳島を元気にする”というミッションへ愚直に取り組んで行けたらと考えています。

ベトナム勤務を経て見えた日本留学

中馬 愛

国際文化学部地域文化学科 2000年(平成12)年卒

9月2日、私はベトナムから帰国しました。2017年3月から2020年9月まで3年半の間、在ベトナム日本国大使館(ハノイ市)に文部科学省出向者として派遣されました。広報文化班に所属し、

国費留学生の選考、日本とベトナム間の教育・文化・スポーツ交流、総理大臣・外務大臣など政府要人が訪越した際のプレス対応など諸業務に従事しました。

ベトナムで勤務したことは、学生時代に抱いた強い思いを実現できた機会となりました。というのは、日本社会に関する研究をしていた私の周りには留学生が多くいて、皆、優秀で日本のことが好きで、もっと勉強したいと情熱を持っていました。しかしながら、いざ就職となると、当時、留学生が日本で仕事を得ることはかなり難しく、日本の企業、社会は外国人の受入れを敬遠しがちでした。せっかく日本を愛して、一生懸命勉強した優秀な留学生が、最後は日本に失望して本国に帰ってしまうことが残念でした。彼らの助けになれないか、その時、私はそう思いました。

その後、文部科学省に就職し、大学の国際化やユネスコ担当となり、2011年に米国研修するなど、国際分野を歩みましたが、留学生に関する業務に従事する機会はないままでした。したがって、ベトナムに派遣されてようやく、留学生と対峙できましたが、驚いたことに、それまで私が理解していた「日本留学」とまったく異なる事態がベトナムで起きていて、3年半、私はその問題に取り組みました。その問題とは、少子高齢化・労働力不足に直面する日本経済を背景とした、新たな日本留学を巡るものでした。

現在、日本に住むベトナム人は約41万人に上り、直近8年間で9倍以上増加しました。これは中国人（81万人）、韓国人（45万人）に次ぐ多さです（16年にブラジル人、17年にフィリピン人を抜く）。41万人の内訳は、約22万人が技能実習生、約8万人が留学生です。

留学生は直近8年間で約14倍も増えました。まさに、私が着任した2017年当時、「日本留学」は



日本語教育を行う中部ダナン市のレクイドン高校生と

大ブームでした。なぜ、このように急増したのか。平均月収2万円のベトナムの若者たちにとって、日本で働けばバラ色の人生が手に入るとの期待がありました。勉強を頑張っただけで順調に日本留学する者もいましたが、問題は、ベトナムの留学斡旋業者の中に、「月に30万円稼げる」、「1時間に3000円の時給がもらえる」、「アルバイトで得た給料で、学費と生活をカバーでき、国に仕送りができる。」等、甘い言葉で営業する者たちがいて、日本語能力や高校卒業証明書、銀行の残高証明書などを偽造し、若者たちをだまして日本に「偽装」留学生として送り込んでいる者がいたことです。

少子高齢化・労働力不足を抱える日本側でも、留学の名目で若者たちを日本語学校等に受け入れ、在留資格とは異なる労働を低賃金で行わせました。斡旋料や学校経費など約200万円の借金を抱えて来日した若者たちは、日本語を必要としない工場等でアルバイト漬けで日本語は上達せず、稼ぎは少なく、経済的に困窮して犯罪に走る者もいました。近年、ベトナム人技能実習生や留学生による犯罪や不法滞在が増えています。

このような状況を放置すれば、被害者の人生が損なわれるとともに、日本におけるベトナム、ベトナムにおける日本のイメージが大きく傷つき、二国間関係に甚大な悪影響を及ぼすことが懸念されました。そのため、日本大使館では喫緊の取組として、①ビザ発給に当たっての審査の強化（留学生に対する日本語能力のチェック）、②高校卒業証明認証の提出の義務化、③正しい情報の発信に努めました。

私は、特に、若者たちが誤った情報に惑わされないよう、大使館フェイスブック等で、悪質業者によるだましの手口例（書類の偽造、不適切な手数料を要求される等）を発信したり、中央・地方の教育当局から学生たちへ注意喚起を行うよう働きかけたりしました。また、ハノイ市のほか、出稼ぎ者が多い北中部の地域を含め全土で若者や業者向けの情報発信セミナーを行い、正しい留学情報をベトナム語で届けました。セミナーは、2017年から3年間で37回実施しました。誤った情報流布による日本留学をベトナムの若者が信じてしまう事態は、緊急に対処

すべきものでした。

このようなベトナムでの勤務経験を経て、神戸大学の学生時代、留学生と交流する中で生まれた、彼らの助けになれないかという思いは、軌道修正して深化・進化したと思います。従来、私が考えていた日本留学は、優秀な高度人材としての留学生獲得を目標とするものでしたが、2019年4月の新在留資格「特定技能」の創設にみるように、少子高齢化・

労働力不足に対峙せざるを得ない新たな日本社会の中で、留学生への期待とその受入れのための環境をつくるには何をすべきか、両国の架け橋として存分に活躍できるよう支えるには何をすべきか、しっかり考えていく必要があると感じています。

引き続き、様々な業務を通じて、夢を持って訪日する若者達の人生を支援していきたいと思っています。



カンボジア国境アンザン大学での日本留学セミナー

新しい明日を創る

神戸支部支部長 川口嘉之

教育学部初等科 1985（昭和60）年卒

2020年2月26日、多くの保護者、教師の見送りの中、6年生の子供たちの引率でハチ高原へ向かった。2泊3日の冬季野外活動に出発。車内には、子供たちの明るい歌声が響いていた。

ハチ高原到着後も例年通りの子供たちの笑顔、そして宿舎の対応、教師の打ち合わせがあった。

その後一気に教育を取り巻く環境、そして日本全体が大きく様変わりしていくことは、私自身この時点では、あまり感じていなかった。

2月22日、市教委より、コロナウイルス感染情報が発出される。その内容は「不確実な情報に惑わされないように」とのことだけであった。24日には、渡航制限がレベル2（不要不急の渡航を自粛）中国湖北省全域にはレベル3（渡航中止勧告）に引き上げられたことが示された。そして、2月27日。全国一斉の臨時休校を要請する方針が政府から発表

された。それを受け28日午前中に神戸市教育委員会で対応が協議され、3月3日（火）から全市一斉臨時休校になるとの通知が発出された。

27日からは、電話、メールなどで学校にいる教頭と相談しあい、保護者あての手紙の文面を考えたり休校期間中の子供たちに対する学習支援の仕方などを考えたりと、学校現場にいないもどかしさを感じていた。そして、冬季野外活動からの帰校。迎えて来ている保護者も、心なしか心配しているように見えた。それからは、次から次に届くメール。それぞれの指示に振り回されながら休校期間が過ぎていく。

突然の休校措置により多くの課題が湧出してきた。まずは、家庭で子供を見守れない場合の対応としての学校園での受け入れについて。教職員の在宅勤務・時差出勤などの服務取扱いについて。長期間



新しい形でスポーツフェスティバル

の休業中の自宅学習教材の作成および学習指導について。卒業式について。丁寧に対応しながら解決に向けて動いた。その他、日々刻々と変化する大量の情報を精査し、焦らず、しっかりと学校経営を進めることに努めた。

結局、卒業式は、卒業生と教師のみで行い、保護者には後日DVDを配付した。当日は例年と変わらず、子供たちは、素敵な服装で登校し、保護者も、我が子を祝う思いをもって運動場で見守ってくれた。その後の記念撮影では、ソーシャルディスタンスを守りながら満面の笑顔を見せてくれた。

そして新学期、入学式は形を変えて運動場で、個別面談という形で実施。新一年生の子供たちの顔も晴れやかで、学校の始まりを象徴するようになった。

しかし、それから2か月の間、依然休校が続くことになる。そして6月1日、分散登校ではあるが、

2020年度の「学校の始まりの始まり」。半分ずつの登校であったが、新しい担任、新しい友達との出会いに、喜びを素直に表情に出す子供たち。学校が、呼吸をし始めたことを実感した。

一学期を終え短い夏休みを過ごした子供たち。8月18日からの2学期を迎えた子供たちの表情は、例年と違って引き締まって見えた。

当たり前のように行われてきた日常は、今はない。コロナ禍による影響といえばその通りだが、「しかたない」という言葉は使いたくない。それを乗り越え「新しい日常」の中で、前に強く進んでいかなければならない。どの学校も、試行錯誤しながら、教育活動を続けている。その根底にあるのは、「子供たちへの熱い思い」である。新しい明日を創りながら、今後の変化にもしなやかに順応していくことのできる学校でありたいと思う。



ソーシャルディスタンスで卒業式

(神戸市立ひよどり台小学校長)

新型コロナ禍における学校運営

田原唯志

教育学部理科 1983 (昭和58) 年卒

紫陽会の皆様におかれては、今年の新型コロナウィルス感染症の感染拡大に伴い、様々な場面で感染防止策を講じるなど、普段とは違う少し不自由な生活をされていることと思います。

さて、今年は新型コロナ対策を取りながらの学校運営を強いられています。今年2月からの感染拡大について連日TV報道や新聞がこの話題で賑やかに

なり、病院のICUが満床になる等、これはいつもと違うなと感じ始めるまでそう時間はかかりませんでした。本校でもインフルエンザのため複数のクラスを学級閉鎖しており、近隣の住民や生徒保護者が感染したとの噂もあったので、いつ新型コロナ感染症の患者が出てもおかしくない状況でした。当時は一刻も早く全校一斉休校にならないかと思っておりま

したので、2月27日の政府による全国一斉の臨時休校が発表された時は、驚きと共に少しホッとしたものでした。この全国一斉の臨時休校は後から様々な批判を受けることになりました。しかし、若い人が無症状で感染を広げているのではないかとの話もあったので、感染を止めるためには仕方ない事だったと思っています。

いざ臨時休校が続くと、3年生の卒業式をどうするのか、高校入試はどうするのか、1,2年生の学習課題をどうするのか、家庭訪問や地域補導はどうするのかなど課題が噴出しました。卒業式は生徒間の間隔を広くとって残念ながら卒業生と関係教員だけで挙行することになりました。いつもは生徒一人一人に卒業証書を渡すのですが、代表生徒1名に渡すのみになったことも大変残念でした。

4月の新学期になっても臨時休校は続いていたので、入学式も6月の分散登校開始まで延期されました。

4月、5月は臨時休校中の学習保障をしなければと、連日課題作成、袋詰め、郵便局への搬入など社会は自宅勤務でほとんど人が出ていない時も教職員は出勤し、それらの作業に連日あたっていました。電車・バス通勤している教員は一種の恐怖を感じながら通勤していたそうです。郵送できたことで、生徒達の学習について少しは保障できたと思いますが、毎週届く分厚いレターパックが恨めしかったと学校再開後に多くの保護者から私は責められることになりました。本校では870名を超える家庭に何度も郵送したので、郵送費だけで100万円以上かかりました。同時に教育委員会からは動画による授業配信をせよとの通達も出て、無人の教室で授業を行い、HPにアップするという作業も加わって、教職員は休む暇のない状況になってきました。

極めつけは、修学旅行でした。まず、5月下旬の日程から10月に変更し、それに伴って宿泊場所も変更を余儀なくされ、大規模校の本校を受け入れてくれるホテルを探すのに苦労しました。そして、6月下旬にはさらに感染のリスクを少しでも小さくするために1泊2日でとなりました。もうこうなると、完全に新しい計画を立てなければならず、それ

でなくとも300人を超える大きな団体を受け入れてくれる場所は少なく、計画立案も困難を極めました。ようやく宿泊先が決まったのが8月下旬でしたので、そこから出発まで残り6週間という時間の中で、授業や部活動をしながらの計画立案、下見、保護者説明会、事前指導など一連の取組ができたことは、今から思えば奇跡に近いものがあったと思います。これも多くの皆さんの努力や協力によって感染防止策を可能な限り行うことで実現できた結果と、感謝の気持ちでいっぱいです。

今は、失われた3か月を取り返すため、連日7時間授業を行っています。生徒達も教職員も少し疲れを見せ始めており、教職員にとっては毎日の消毒作業も大きな負担となっています。しかし生徒達は、学校に来られること、部活動ができることに感謝し、以前より真面目に一生懸命取り組んでいるように思えます。

このように、今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、例年とは違う学校生活ですが、感染防止策を取るために多くのアイデアや工夫も生まれ、不自由な中でも生徒達はそれを受け入れつつ精一杯自分たちもできることはないか考えています。作文から、これまで見られなかった生徒達の心の成長も見ることができています。いつ収まるか分かりませんが、生徒達の成長を止めてはいけないという気持ちで、これからも生徒達と共に力を合わせて前に進んでいこうと思っています。



修学旅行、計画から実施まで6週間

(神戸市立鷹匠中学校長)

恋しい双方向の対面授業

松田 忠喜

教育学部初等教育科 1981（昭和56）年卒

縁は異なるもの味なもの。ひょんなことから前会長の宮嶋昭周先生とお話したのは6年前、とある研究会の懇親会でした。以前から研究会で宮嶋先生と何度もお会いしていたのですが、その時初めて神戸大卒業生と知ることになりました。その後、紫陽会の地区組織常任幹事として入れてもらうことになりました。あの酒宴の席で、出身大学のことを話さなければ、紫陽会はホームカミングデイ参加だけの遠い存在だったかも知れません。

そして、神戸大学発達科学部の教育実習前研修の「特別活動と学級経営」の講座を持たせていただいて6年目となりました。私は2年前に大阪府の小学校校長を退職してから大学数校にも非常勤講師として勤務していますが、神戸大学生は全体的に受講態度が真面目です。まあ、教育実習前講座ということで服装もきちんとしているから余計にそう思うのかもしれません。聡明さや学習しようという意欲も伝わってきます。おしゃべりもありません。ポイントをしっかりと押さえて聴くことができます。説明不足でも意を汲んでくれますので助かります。私自身、授業をしていてとても楽しいです。貴重な90分もあっという間に過ぎてしまいます。

ただ、残念なこともあります。それは、滲み出る気迫があまり感じられないことです。社会の激しい変化にも対応できるたくましく生き抜く力が必要だと言われていますが、「主体的」「創意工夫を凝らす」ことに対して課題があるようです。

今年はコロナ禍で対面授業ができず、こちらがアップロードした資料をパソコンなどで見て感想を書くオンデマンド型で実施しましたので、とても寂しい思いをしました。オンラインでは学生の息遣いが伝わってきませんから。やはり「目の前で」「雰囲気を感じる」「嫌でもそこにいなければならぬ完全な双方向」の3拍子がそろった対面授業が恋しいものです。

私は、どの大学でも授業の最初に次の3つのことをしてほしいと注文を付けています。この3つのことをすれば、前で話している人を勇気付けることになると伝えてあります。それは、「うなづく」「ペンを走らす」「拍手する」の3つです。余談になりますが、神大生は、私の感じる限り「ペンを走らす」はよくできていますが、緊張しているのか「うなづく」が弱く、多少なりともポーカークフェイスになっているようです。私の話は、中身はさておき、絶対に面白いはずなのですが。

ある時、後ろの方で、必死でペンを走らせている学生を見付けました。見ると、私の方を食い入るような眼で見えています。時々うなづいてもいます。「この学生、相当やる気があるな」とうれしくなりました。途中、学生のそばに行ってみました。何とその学生は、講義資料の端に私の似顔絵を描いていたのです。啞然としましたが、私の特徴を捉えて大変似ていました。そこで思わず、「いやあ、実にうまく書けていますね。将来は美術関係を目指しているのかな。」と言いました。その学生は恐縮した様子で、「はい」と言いながら、ちょっぴりうれしそうでした。もちろん、その学生の行為は咎められるべきことでは、厳しく注意するのではなく、上手なものに対しては、ほめることも時には必要ではないでしょうか。「先生は絶対に叱らない。前向きに受け止めて、その子のよさを見つけてほめることがうまい。私たちも自分を知り、成長するきっかけになるし、先生のその姿勢を見習いたい。」とよく言われます。

学生が講義を受けた後、1ページにきっかりと講義内容や感想などを書きます。それをコピーしてすべてくださる神戸大学にも感謝しています。その中で私自身いいなあと感じた文を載せておきます。「一人一人の子どもと向き合い、子どもたちとかわる中で、自分を見つめ直し、明日につなげる。」

ICT機器を活用した授業の工夫

岡田 治 美

教育学部教育衛生学科 1981（昭和56）年卒

大阪市の旧同和教育推進校で長年勤務しているご縁で、人権・同和教育を主題にした実習前の研修を3年行っている。人権・同和教育概論は指導いただいている前提で、私の担当は学校現場で経験したことが中心となる。だから、過去の授業においては、生の声を届けることを何よりも大切にしてきた。しかし、今年はコロナの影響で教室に行けなくなった。そして、学生にはオンデマンド形式で発信することになった。それは、授業内容を書面にして学生に読んでもらい、レポートを提出してもらうという形式である。

話す内容を文章や写真や資料をつかって表現することは、そんなに難しい作業ではない。話し言葉を用いて、目の前で語っているかのように心がけて作成すれば授業をしているような感じは出せる。分量も学生が読みこなすのに大きな負担にならない程度にし、できあがったものを読み返し、内容をチェックしながら考えることがあった。

コロナの感染という大きなできごとにより全国の幼稚園、小学校から大学にいたるまで休園、休校という事態に巻き込まれた。しかし、学びをとめることはできない。国をあげてICT機器を導入し、通信環境を整備する動きになっている。中には、子どもたちにとって、わかりやすい授業を視聴させた方がいいという意見も聞こえてくる。感染リスクを冒してまで学校に行き、様々な課題をもつ子どもがいる教室で学ぶ必要はないという声すらある。

私が作成した文書を読んだ方が、学生にはわかりやすいのかもしれない。くりかえし、読み直すこともできるだろう。レポートを書くという作業には向いている。

だけど、私には大きな不全感が残った。双方向のオンライン授業ならまだしも、文書を送るだけで、フィードバックはレポートのみでは、授業としては成立しない。学び合いや対話がなければ、考えが深

まることもない。そもそも授業の目的とは、多様な見方・考え方にふれて、自分の考えを深化・発展させていくことである。

コロナ禍で通常の授業ができなくなった時に、ICTをうまく活用しながら、どのような授業を進めていけばいいのだろう。それを追究していかなくてはならない。実習前研修を終えて、十分なことができず学生に申し訳ないという思いとともに、大きな宿題をいただいた。

（大阪市立大國小学校長）



ウェルカムパフォーマンス（ホームカミングデイより）

● グローバルイシュー (Global Issues) と人権

コロナ禍を如何に食い止めるかが全世界の問題となってるように、地球規模で解決しなければならぬ課題が数多くあります。

環境、災害、民族、宗教、人権、教育、経済…、毎日のように新聞やテレビで報道されているこれらの問題が、私たち現代に生きる人間一人ひとりに「今、何を為すべきか」という命題を投げかけていることを、私たちは当事者意識で受け止めなければなりません。この今日的命題をグローバルイシューといいます。

国際人間科学部は、4つの学科のそれぞれの専門分野からグローバルイシューの構造に迫るため、フィールドワークとしてグローバル・スタディーズ・プログラム（GSP）を必修化しているのです。

No.3 会誌編集委員会編

2020年度 評議員会（書面表決）

今年度の評議員会は、8月8日（土）午前10時より舞子ビラにて開催の予定でした。

新型コロナウイルスの感染拡大が治まり始めたころでしたが、再び感染拡大の傾向がみられ、多人数の集会や遠方から来ていただくことへの不安など、諸般の状況を考慮してやむなく中止を決断いたしました。

評議員会は規約上、紫陽会にとって総会に代わる重要な会と位置づけています。例年、本誌を通して会の概要を報告していました。しかし、今年度は会の和やかな雰囲気や、研修の内容もお伝えできず、提案の議案に対して書面表決で承認をいただいたことだけをご報告いたします。

評議員会に先だって6月20日（土）には、幹事のみなさんのご協力を得て幹事会が開かれ、①2019年度事業・会計報告、②2020年度組織、人事（案）・役員選出、③2020年度事業計画（案）・会計予算（案）などの議案を提案、ご承認いただきました。

評議員の方には資料を発送、書面で意思表示していただきました。内容の詳細は本誌に掲載していますそれぞれの項目をご覧ください。

本年度紫陽会賞の推薦についても、別項で紹介しております。（P16参照）

提案事項については、承認いただきましたが、紫陽会として今後さらに検討していかなければならない多くの課題を残しています。ここでは3点挙げてみます。

1) これまでの事業を継承していきながら、国際人間科学部の同窓会としてふさわしい活動を創造していくことです。例えば、これまで紫陽会が主催してきた「卒業を祝う祝賀会」のあり方にしても、大学の状況をキャッチしながら、学部・学科の特色を生かした方向性が必要です。併せて活動の創造と共にそれに似合った予算の執行など検討の必要があります。

2) 予算執行にかかわって会費徴収の件ですが、年々減少の傾向があることは度々伝えてきましたが、本学部になってからは、その傾向が顕著に表れています（学生数の増加に比して、納入会員数の増加がないこと）。各学部とも同じ傾向ですがその対策に頭を悩まします。

3) 人事・組織も停滞しており、役員・評議員・幹事等の若返り。各卒業学部・各年齢層とりわけ発達科学部、国際文化学部の卒業生から同窓会をリードしていただける方の出現が期待されます。などが挙げられます。

なお、6月の幹事会では大学の講義の状況について「大学からコロナウイルス感染防止のための神戸大学の活動制限指針」に従って諸活動の一部制限から原則禁止まで学生へ基準が示されていることが説明されました。6月1日現在の基準ですが「原則として全て授業科目の開講禁止」「学生の入構禁止」など、学生にとって厳しい基準が敷かれています。大学がもつ特別な事情を考慮して、講義のオンライン化が全国的な感染予防対策として実施されていることはマスコミで報じられているとおりです。10月現在も構内での学生の姿は数少ないようです。

2021年度の評議員会は、8月7日（土）午前10時より舞子ビラで開催の予定です。



2020.6.20 幹事会

2019年度 事業報告

平成31年

4月1日(月)	新年度組織・諸会議準備
3日(水)	新入生ガイダンス(出光佐三記念六甲台講堂一宮嶋)
4日(木)	入学式(ワールド記念ホール一青木)
12日(金)	教育実習前実習 講義 人権・同和教育(岡田)・特別活動と学級経営(松田)
16日(火), 19日(金)	教員採用試験対策セミナー(佐谷)
18日(木)	教育実習前実習 講義 道徳の授業(牧坂)・子どもと生活指導(栗木)
19日(金)	教育実習前実習 家庭との連携(青木)
20日(土)	第1回役員会・会誌「紫陽会」40号編集会議
22日(月)	HCD実行委員会(米田・中津)
23日(火)	学友会会計監査(青木)

令和元年

5月10日(金)	平成30年度会計監査(松田・柳原)
18日(土)	兵庫教育会総会(若戸)
24日(金)	学友会常任委員会(青木)
6月3日(月), 13日(木), 24日(月), 26日(水)	教員採用試験対策セミナー(佐谷)
13日(木)	KUC運営委員会(佐谷・笹)
20日(木)	大学訪問・評議員会講師依頼等(青木)
22日(土)	令和元年度幹事会・紫陽会賞推薦, 選考
24日(月)	兵庫教育会会館運営委員会(若戸)
26日(水)	学友会常任幹事会・幹事会(青木・笹・久下)
7月1日(月)	評議員会案内状・資料作成
8日(月)	評議員会打合せ・舞子ピラ(青木・宮嶋・松永・若戸)
11日(木), 12日(金)	教員採用試験対策セミナー(佐谷)
12日(金)	評議員会案内状・資料発送 完了
29日(月)	学友会第3分科会打合(青木)
8月3日(土)	評議員会・研修会・懇親会(舞子ピラ)
8日(木)	教員採用試験対策セミナー(佐谷)
22日(木)	KUC講演会「世界一の地震国・火山大国に暮らす覚悟」神戸大学海洋底探査センター長 巽 好幸 教授(青木・宮嶋・米田・若戸・浦嶋)
9月3日(火)	学友会役員会・大学との意見交換(青木)
11日(水)	会誌印刷校正 20(金)最終校正
18日(水)	坂下氏(紫陽会賞受賞者)訪問(青木・宮嶋)
10月3日(木)	KUC運営委員会
4日(金)	会誌「紫陽会」40号発行・発送
26日(土)	大学広報誌「風」編集委員会
11月9日(土), 10日(日)	第14回ホームカミングデイ・紫陽会賞贈呈式
14日(木)	神戸大学祭 KUC講演会「神戸スイーツについて」 加護野 忠雄 神戸大学名誉教授 紫陽会神戸支部総会(中止)
12月3日(火)	HCD実行委員会(米田)
9日(月)	新会員名簿の発送
11日(水)	大学訪問一事務連絡(青木)
21日(土)	役員会・学部支部基金委員会 ラッセホール
28日(土) ~ 1月5日(日)	冬季休館日

令和2年

1月6日(月)	事務局開き
8日(水)	大学訪問(年度末・年度始め事務等打合せ一青木・宮嶋・松永)
25日(土)	学位授与式・卒業, 修了祝賀会打合せ(宮嶋・松永・若戸)
30日(木)	KUC新春講演会(楠公会館) 武田 廣学長(青木・鈴木・若戸・浦嶋)
2月2日(日)	紫陽会姫路支部総会(青木)
3日(月)	学友会常任幹事会(青木)
11日(火)	紫陽会大阪支部総会(青木)
3月5日(木)	KUC運営委員会(中止)
14日(土)	学友会常任幹事会(中止)
14日(土)	前期新入生オリエンテーション(六甲台第1キャンパス 中止)
25日(水)	学位授与式 祝賀会(鶴甲第2キャンパス体育館 中止)

28日(土) 卒業生, 修了生に記念品(クオカード)を贈る
後期オリエンテーション(六甲台第1キャンパス 中止)

2020年度 事業計画

令和2年

4月1日(水)	新年度準備
3日(金)	入学式(国際コンベンションホール) 中止
15日(水)	ガイダンス(第1キャンパス) 中止
17日(金), 23日(木), 24日(金)	大学生に祝詞・記念ファイルを贈る
20日(月)	教育実習前実習 延期 8月オンラインで実施
5月5日(火) ~ 6月7日(日)	第1回役員会 延期
6月6日(土)	新型コロナウイルス拡大防止のために事務局閉鎖
10日(水)	第1回役員会・会誌「紫陽会」1号編集会議 会館応接室
20日(土)	2019年度会計監査(松田・柳原・若戸)
22日(月)	2020年度幹事会・紫陽会賞推薦, 選考
7月3日(金)	兵庫教育会 会館運営委員会(若戸)
6日(月)	会誌「紫陽会」原稿依頼文発送
31日(金)	評議員会資料発送(書面表決により評議員会に代える)
8月5日(水)	学友会常任委員会(青木)
6日(木)	評議員会決書締切(議案 可決, 承認)
12日(水) ~ 14日(金)	大学訪問(卒業生・修了生祝賀会, 謝恩会等打合せ 青木)
24日(月)	和田 彩氏と打合せ(紫陽会賞, 会誌表紙依頼 青木・宮嶋・松永)
26日(水)	夏期休館日
9月2日(水)	櫻井学部長, 小紫事務部長 来局, (青木, 宮嶋, 松永)
15日(火)	和田 彩氏 来局(宮嶋・若戸)
30日(水)	学友会幹事会(青木・笹・久下)
10月5日(月)	学友会 大学との意見交換会(青木)
31日(土)	会誌「紫陽会」原稿締切
11月7日(土), 8日(日)	会誌「紫陽会」編集会議 第15回ホームカミングデイ 中止 紫陽会賞贈呈式(来年度の予定)
12月5日(土)	神戸大学祭 中止
7日(月)	紫陽会 神戸支部総会 中止
10日(木)	武田 廣学長を囲む懇談会 中止
18日(金)	新会員名簿発送(延期)
25日(金) ~ 1月7日(木)	会誌「紫陽会」発行, 発送 第2回役員会・学部支援基金委員会 延期 冬期休館日

令和3年

1月8日(金)	大学訪問(2020年度末, 2021年度当初事務打合せ)
2月 日()	KUC新春講演会
2月 日()	紫陽会姫路支部総会 中止
2月 日()	紫陽会大阪支部総会
3月 日()	学友会常任幹事会・幹事会
25日(木)	前期新入生オリエンテーション(六甲台第1キャンパス)
日()	学位授与式・卒業を祝う会
日()	後期新入生オリエンテーション(六甲台第1キャンパス)
日()	入学記念品・祝辞・入学説明会ガイダンス資料等 準備
日()	新年度諸準備

9月末までの事業については実施済み

その他の行事・参加協力

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 教育史・写真集 販売促進 | <input type="checkbox"/> 同期会行事 |
| <input type="checkbox"/> 活動・就職サポート(準会員) | <input type="checkbox"/> 支部活動支援 |
| <input type="checkbox"/> 大学基金・学部支援金 | <input type="checkbox"/> 関係団体行事 |
| <input type="checkbox"/> 会員研修の企画 | <input type="checkbox"/> 大学企画事業・研究発表等支援 |

第12回学部支援基金委員会報告

学部支援基金委員長 松 永 一 夫

- 学部支援基金委員会要項に従って、2019年度の支援基金の支出を大学の申し出の事業の必要経費にあてる。
- 2019年8月2日（土）「評議員会」で承認を得た「基本財産予算」の内「学部支援基金」1,000,000円の範囲で処理をする。
- 学部決定、三社相見積もりを検討、業者を決定。学部から支援依頼がある場合、浄財からの支出であるため、今後とも三社相見積もりをもって検討する。
- 鶴甲第1キャンパス演習室 モニター整備・鶴甲第2キャンパス F棟モニター整備
学部提案 1,000,000円を了承し、全額を整備費用にあて、支援金から支出する。

神戸大学国際人間科学部支援基金委員会要項

(名 称)

第1条 本会は神戸大学国際人間科学部支援基金委員会（以下学部支援基金委員会）と称する。

(事務局)

第2条 学部支援基金委員会は、事務局を神戸大学同窓会紫陽会事務局内に置き紫陽会の一委員会として活動する。

(目的および業務)

第3条 学部支援基金委員会は、神戸大学国際人間科学部（以下学部という）における研究・教育の振興を図るため学部が行う次の事業の協力要請を基に支援することを目的とする。

- (1) シンポジウムをはじめとする学部の企画する各種行事
 - (2) 海外での研修、留学への補助
 - (3) 学部の備品等環境整備
 - (4) 学部支援基金の設立
 - (5) その目的を達成するために必要な事業
2. 学部支援基金委員会は、前項の目的を達成するため寄付金を募集する。

(役 員)

第4条 学部支援基金委員会には特定の役員を置かず、紫陽会の役員の中から若干名の委員を選出し会務を遂行する。

- (1) 委員長 1名
- (2) 委員 若干名
- (3) 監事 4名

(委員の選出)

第5条 委員長および委員は紫陽会役員の中から役員会において選任する。

2. 監事は紫陽会評議員の中から役員会において選出する。

(委員長)

第6条 委員長は会務を総理し、学部支援基金委員会を代表する。

(委 員)

第7条 委員は委員長と共に委員会を構成し、紫陽会役員会の委任を受けて会務を掌理する。

(監 事)

第8条 監事は会計および会務遂行の状況を監査する。

2. 監事は学部支援基金委員会および紫陽会役員会・評議員会に出席し意見を述べることができる。

(委員会)

第9条 委員長は委員会を招集し、その議長を務める。

2. 委員会は委員長が必要と認めるとき、または、紫陽会会長または役員会の要請があった場合は委員長がこれを招集する。
3. 委員会は委員会構成員総数の2分の1以上の出席がなければ、委員会を開き議決することができない。

4. 委員会の議決は出席の過半数を持って決し、可否多数の場合は議長の決するところによる。

5. 前2項については、委任による議決権の行使を含むものとする。

6. 委員会の議決は紫陽会役員会並びに評議員会の承認を得るものとする。ただし、緊急の場合は事後承諾を得るものとする。

(審議事項)

第10条 委員会は次に挙げる事項を審議する。

- (1) 紫陽会役員会より付託のあった事項
 - (2) 解散に伴う残余財産の処分
 - (3) その他学部支援基金委員会の業務に関する重要事項で委員長が必要と認めた事項
2. 委員会は権限の一部、または全部を紫陽会役員に委任することができる。

(資 金)

第11条 学部支援基金委員会の資金は次のとおりとする。

- (1) 第3条第2項により募集した現金
- (2) 前項の資金から生ずる果実
- (3) その他

2. 学部支援基金委員会の資金は、学部支援基金委員会の業務を行うためのもの以外に支出してはならない。

3. 学部支援基金委員会の資金は、委員会の議決に基づき委員長が管理し、原則として紫陽会の基本財産に入れるものとする。

4. 学部支援基金委員会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

5. 学部支援基金委員会の資金の収支決算は毎年度紫陽会の役員会に図り、かつ、紫陽会評議員会において承認を得るものとする。

(解 散)

第12条 学部支援基金委員会は、第3条の目的を達成した時に解散する。

(残余財産の処分)

第13条 学部支援基金委員会の解散に伴う残余財産は、委員会の決議を経て紫陽会の基本財産に繰り入れる。

(補 則)

第14条 この要項は2017年（平成29年）4月1日から施行する。

2020年度 学部支援基金委員会

委員長 松永 一夫

委員 近藤のぞみ・久下 正文・笹 信隆・岩戸 恵子

幹事 松田 進・柳原 弘一

会員の皆様のご協力・ご支援を

昭和63年3月までにご卒業・ご修了の皆様方へ

特別維持会費納入のお願い

神戸大学が国立大学法人へ衣替えして以降、大学運営にかかわる予算が激減し、各学部とも財政面で逼迫が伝えられてきます。

紫陽会ではその都度会報で報告させていただいておりますが、毎年、大学・学部への支援を可能な範囲で行ってきました。

支援事業を継続していくためには、**ご卒業・ご修了30年目の皆様に「特別維持会費」**をお願いしてまいりました。本年は昭和63年3月までの卒業・修了の方々をお願いすることになっています。

なにかとご無理申しあげますが、趣旨をご理解の上、納入にご協力いただくようお願いいたします。

同封しました所定の振り込み用紙に、必要事項をご記入の上、お振り込みいただければ幸いです。

記

1. 神戸大学卒業・修了30年を経過した方
 - ① 昭和63年3月の卒業生・修了生
 - ② 昭和63年3月以前の卒業生のうち、現在までに納入のない方
 - ③ **1口1,000円できるだけ5口以上**
(原則1回)
2. 各師範学校卒業生のうち現在まで納入のない方
1口1,000円 何口でも結構です(原則1回)
3. 原則1回にこだわらず、協力してくださる方
任意の金額でお願いいたします

※規約細則23条；平成4年度評議員会議決による

学部支援基金ご協力のお願い

平成16年より神戸大学院人間発達環境学研究科並びに神戸大学発達科学部の支援を目的として「神戸大学発達科学部並びに大学院総合人間科学研究科(発達系)支援基金」を設立し、これまで多くのご協力をいただけてきました。

発達科学部は国際文化学部と発展的統合し「国際人間科学部」として再出発し四年目を迎えます。地域文化・地域教育の発展充実に寄与してきた歴史と伝統が国際的視野のもとで堅持され、さらなる発展が期待される新生学部へ事業を継続していきます。そのためには、会員の皆様の心からなるご支援をお願いするしかありません。

母校のさらなる発展を期するために、会員一人一人が積極的にご協力いただくことで、成果があげら

れるようにと願っています。長期にわたる継続的な支援となりますので、意を汲んでいただきご協力をよろしくお願いいたします。

記

応募基金	正会員	1口	10,000円
	準会員	1口	5,000円
応募方法	所定の振込用紙 (今回も同封しております)		
郵便振替	01140-0-84600 (学部支援金と明示してください)		

「新型コロナウイルス感染症対策緊急基金」のお願い

2020年度は、長い歴史の中で経験したこともない「新型コロナウイルス」で明け暮れました。世界中で猛威を振るい、その感染拡大は収束の気配がなく、不安は募るばかりです。前半は学生の本分である学業はおろか、夢に描いた学生生活もほとんど体験できず、大学とはラインで繋がれていると言うものの本来求めようとしていたことにはほど遠いものであったには違いありません。

一方、大学では研究機能を維持するため、不眠不休の努力を続けてこられている事に違いありません。最も大きな影響を受けている学生の皆さんや命がけの勤務している附属病院などの医療従事者さんのために、大学全体と本同窓会「紫陽会」で応援・支援すべきと判断、同窓会の皆さんに呼びかけております。

そのため今般、神戸大学基金の中に「新型コロナウイルス感染症対策緊急基金」を立ちあげております。

主な支援対象としては

- ① 今回の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、経済的被害・損失を被った学生
- ② 今般の危機の中、極めて厳しい環境下で診療医療業務に尽力している医学部付属病院等の医療従事者
 - ①については、海外派遣・留学中、学費負担者の失業・収入の激変、アルバイト機会の喪失など学業の継続に支障をきたしている学生を支援できればと考えています。

また、新聞報道によると、上記の理由から余儀なく休学や退学に追い込まれた学生の数も少なくはありません。その影響が少なくなってきたといっても、経済状況はすぐに好転するとは思えず、経済的な支援はさらに必要性を増すことになると思われます。

②については、極めて厳しい環境のもとで、コロナに対応しきれなかった医療体制を支え、生命の危機管理に神経をすり減らしている医療関係者の皆さんを支援しています。

今回の緊急募金を通じて、皆さんの応援のメッセージとご支援を賜り、ともに難局を乗り越えることができますようご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、紫陽会（基本財産）から、300,000円を基金として支出させていただきました。例年、「学部支援金」「特別維持会費」（紫陽会）、「神戸大学基金」を通して個々の会員の皆様に多方面にわたって支援への協力を依頼させて頂いておりますが、今回の「新型コロナウイルス感染症対策緊急基金」については、今年の臨時的な措置として、2021年1月末まで募金を継続しております。

詳しい情報については、同封の「新型コロナウイルス感染症対策緊急基金」を参照。

趣旨について、本文に一部引用していますが、神戸大学HP（神戸大学基金）をご覧の上ご協力よろしく願いいたします。

紫陽会事務局をよりよく知っていただくために

● 事務局の苦悩

紫陽会が積年抱えてきた悩みがとうとう限界にきたようです。聞いてくださいますか。

いままで紫陽会は、神戸大学を愛してやまない有志が、時間を割いて事務局へ出務し運営に携わってきましたが、人は一年に1歳ずつ年をとります。

実務に携わるメンバーは、支えてきた社会の第一線を退き、育ててくれた大学と同窓会へのご恩返しとして努めていますが、その方々の年齢を考えると無理はいえなくなります。しかし、世の現実には年金の支給年齢が年々高くなり生活のことを考えると完全リタイアは70歳以降となります。これに加えて今年から難敵のコロナ禍です。難しい世の中になりました。

大所帯の紫陽会の運営を継続するには、少しでも若いエネルギーをお持ちの方のご尽力が欠かせません。月・水・金の週3日、9時から16時の間の任意の時間を、紫陽会の実務遂行のためにご奉仕いただけないでしょうか。

会員寄贈図書－その後の状況－

1996（平成8）年の「あなたの著書を大学図書館に寄贈を」との呼びかけ以来、319冊もの編著書が寄せられています。

ここでは「会誌40号」以降にご寄贈いただいた図書10冊をご紹介します。これらの編著書は国際人間科学部鶴甲第2キャンパス（元発達科学部）の人間科学図書館内専用書架にあり自由に閲覧できます。

1. 「太閤検地をめぐる淡路二郡の天正期の指出検知」

中世の富有地主の解体を通し封建的土地所有（武士社会）を目指した改革で事例を通して立証したものです。

2. 「天正13年淡路指出寄帳―所有地に見られる買高制について」

淡路拝領の脇坂所領地の年貢高と公事費用の代銭納を自己申告したもので志築他所領地代銭納解体変質を明らかにしたものです。

北山 學（教育学部 1956年卒業）

1. 「物言い」

2. 「一けん家」

身近で見聞きしたことの随筆集

藤本 直子（教育学部 1979年卒業）

1. 「神戸市北区淡河町の学校園史考」

有馬高校淡河分校編

出身地の校園史4部作②

2. 「神戸市北区淡河町の学校園史考」

神戸市立淡河・好徳小学校編

出身地の校園史4部作③

3. 「神戸市北区淡河町の学校園史考」

神戸市立淡河・好徳幼稚園編

出身地の校園史4部作④

戸田 紘（教育学部 1964年卒業）

1. 「彩の書」ワルシャワ個展図録

2. 「彩の書」2020年図録

3. 「字の魅力を探る1」

和田 彩（教育学部 1991年卒業）

神戸大学同窓会紫陽会 著書寄贈票

書名	発行年月日			年	月	日			
内容の簡単な紹介 (2行以内で)	頁数	頁	型	A 5判・B 6判・()					
出版社名									
定価									
著者氏名									
住所									
電話番号	F								
E-mail									
卒業・修了年次	大正	・	昭和	・	平成	・	令和	年	月
卒業・修了学部・学科									

※ 著者以外の方が寄贈者の場合は次にもご記入ください。

寄贈者氏名	〒		—	—	—
住所	—				

※ この票をそのままご使用くださるか、B 5版でコピーをしてご使用してください。

事務局便り「あじさいの小径」

2月27日（木）政府は全国の小中高特別支援学校に対し3月2日（月）から春休みまでの臨時休業を要請した。これを受け神戸市では3月3日（火）から全市一斉臨時休校となった。十分な周知期間のない中での臨時休校、学校現場の混乱は想像に難くない。休校中の学習保障はどうするのか、卒業式はどうするのか等待たなしで対応しなければならない課題が山積していた。休校は新学期になっても解除されずその後6月1日まで続いた。神戸支部の川口支部長の寄稿からはこの間の学校の緊迫した様子とともに学校再開後の丁寧な学校経営が伝わってきた。また田原副支部長からは休校中の教職員の皆さんのご苦労と関係者の皆さんのご協力を実現した修学旅行についてご寄稿いただいた。お二人の話からコロナ禍の困難な状況にありながら児童生徒とともに前に進んでいこうとする学校の姿勢が感じられた。

一方、大学は入構が禁止され前期の授業はすべてオンラインで行われた。新生活に夢を膨らませていた新入生にとっては想定外の学生生活のスタートとなった。「今年の新入生は学内の友人がほとんどできないまま夏休みに入ります。他府県出身者は実家でオンライン授業を受けながら神戸市内の下宿先の家賃も支払わなければなりません。コロナ禍でバイト先も見つからず大きな経済的負担が発生しています。」役員会で聞いた神戸大学の高田副会長の言葉で学生がおかれている厳しい現実を知った。

2017年（平成29年）3月、36年間勤務した神戸市立中学校教員を退職し同年4月から神戸市立青少年育成センターに勤務している。主たる業務は教育相談、街頭補導、適応指導教室である。文部科学省が2018年2月に公表した「児童生徒の問題行動・不登校等調査」によると、年間30日以上欠席した

不登校の子どもは、全国の国公私立の小中学生合わせて前年度比6.1%増の133,683人に上り、4年連続で増加した。適応指導教室とはこの不登校生たちの学校復帰に対する支援である。

「先生、クラスで1位、コースでも1位になりました」電話の向こうでAさん（高1女）の声がはじけていた。彼女が私が勤務する適応指導教室にきたのは2年前、中学2年生の9月だった。中1の1学期に友人関係のトラブルから学校に行きづらくなった彼女は約1年間登校・欠席を繰り返した。当然学校の成績は芳しくなく進路に関しても全く関心がなかったが数学だけは好きだった。3年生になり行ける学校があれば行きたいと考えるようになり国・数・英の3教科に絞って当教室で学習を積み重ねた。今年4月Aさんは神戸市内の私立高校に入学し、11月まで無遅刻無欠席である。中学校の校舎・制服を忌み嫌っていた彼女が高校ではLINEを交換した友人が10人くらいできたそうだ。

「中学時代のことは思い出したくないけどあの時があるから今の自分がある」とAさんが笑って振り返る日が来ることを願っている。

国際人間科学部同窓会誌第1号いかがでしたでしょうか。本号記事をお読みいただきコロナ禍の小中学校の教育活動へのご理解とご協力、本学学生の窮状に対する支援について会員諸氏のお力をお借りできれば幸甚です。

皆様のご意見・ご投稿などお待ちしております。

編集担当 副会長 笹 信隆

皆様の投稿をお待ちしています。

地区・支部・教科回生コースの動向や会合について
随想・意見・論評・歴史地誌・趣味等々について

問い合わせ・宛先

〒650-0011 神戸市中央区下山手通6-2-19
神戸大学同窓会紫陽会事務局 会誌編集担当
電話078-371-6322 FAX 078-371-6306
Email kobe-ajisai@shiyohkai.com